

2022 年度 亀田医療大学

学生生活満足度・実態調査報告書

## 1. 調査目的

本調査は、亀田医療大学の学生支援体制およびキャンパス環境に対して、学生がどの程度の満足を得ているのかを把握し、さらに、得られた結果から、学生支援およびキャンパス環境の課題を明確にし、学生生活の充実に資することを目的とする。また、学生の修学状況や課外活動等の学生生活の現状を的確に把握し、今後の大学運営や学生生活の環境整備、将来的な大学計画の参考にする事を目的とする。

## 2. 調査対象

2022年7月時点で本学に在籍する全学生を対象とした。

## 3. 調査期間

2022年7月13日から7月21日まで

## 4. 調査方法

学生に調査目的と趣旨を説明し、自由意思による調査協力を依頼した。QRコードを配布し、iPadから記名式で回答を求め、成績評価には一切関係ないことを説明した。

## 5. 調査項目

アンケートの主要項目として、「Ⅰ.学生支援」6項目、「Ⅱ.屋内施設」8項目、「Ⅲ.屋外施設」3項目、「Ⅳ.大学生活全般」6項目の満足度に関する質問内容を設定し、「Ⅴ.総合的な学生生活」に対する満足度を加えた。また、実態調査の項目として、「Ⅵ.現在の生活状況」は通学時間や生活費やアルバイトの状況に関する8項目、「Ⅶ. 修学の状況」は学修時間や不明点の対応に関する4項目、「Ⅷ. 学生自治会・学生団体（部、サークル）活動」は学生自治会・学生団体（部、サークル）活動やボランティア活動の参加状況に関する3項目、「Ⅸ. 学生生活の悩み」は2項目を質問内容とした。さらに、「Ⅰ」～「Ⅳ」の各設問の最後に回答理由や意見を記入するための自由記載欄を設け、調査用紙の最後に具体的な意見等を記入するための「Ⅹ. 自由記載」を設けた。

## 6. 調査結果

本調査で対象とした学生は282名(休学者9名除く)であった。そのうち、回答の得られた学生227名(回収率：80.5%)を分析対象とした。

表1 学年別の回収率

学年(人数)	回答数	回収率
1年生(55名)	28名	50.9%
2年生(79名)	57名	72.2%
3年生(75名)	72名	96.0%
4年生(73名)	70名	95.9%
総数(282名)	227名	80.5%

(参考資料)表2 男女別の構成比

性別	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	構成比
男性	14名	19名	12名	18名	63名	22.3%
女性	41名	60名	63名	55名	219名	77.7%

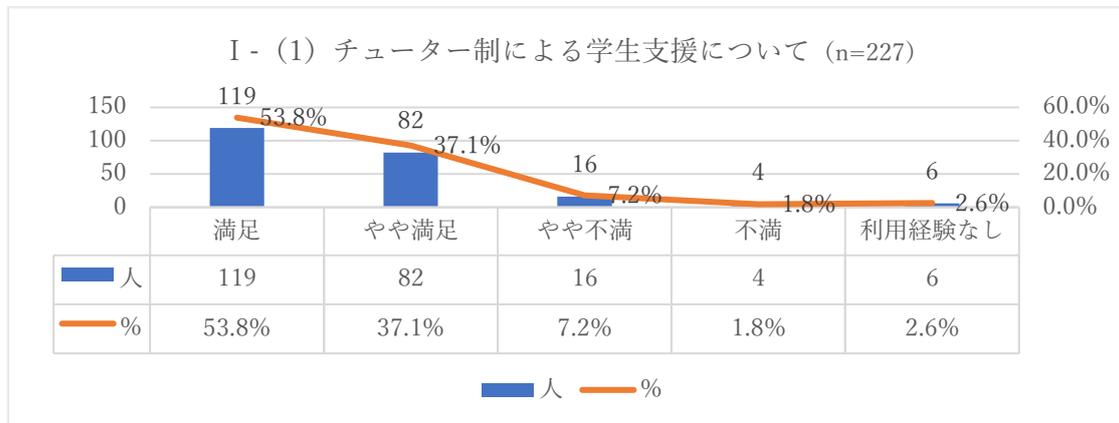
## 「I.学生支援」に対する満足度

### (1) チューター制による学生支援に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は6人(2.6%) /227人で、前年(8%)から激減していた。また、それ以外の学生221人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」53.8%、「やや満足」37.1%を合わせた割合は90.9%で、学生の9割は満足していた。
- ② 「不満」1.8%、「やや不満」7.2%を合わせた割合は、9.0%であった。
- ③ 自由記載では、「チューターの先生に相談しにくい」「チューター面接などチューターと話す機会がない」「チューター面談がなかった」「自分で希望を出したチューターのところに行きたい。チューターを変更するのは可能であるが、特に問題もないのに変更するとチューターとの関係が気まずくなるからあらかじめ希望をとってもらいたい」という意見があった。

チューター制度に対しては9割の学生が満足しているが、少人数ではあるが利用経験なしの学生が居ることやチューターに関する様々な意見や要望がある。

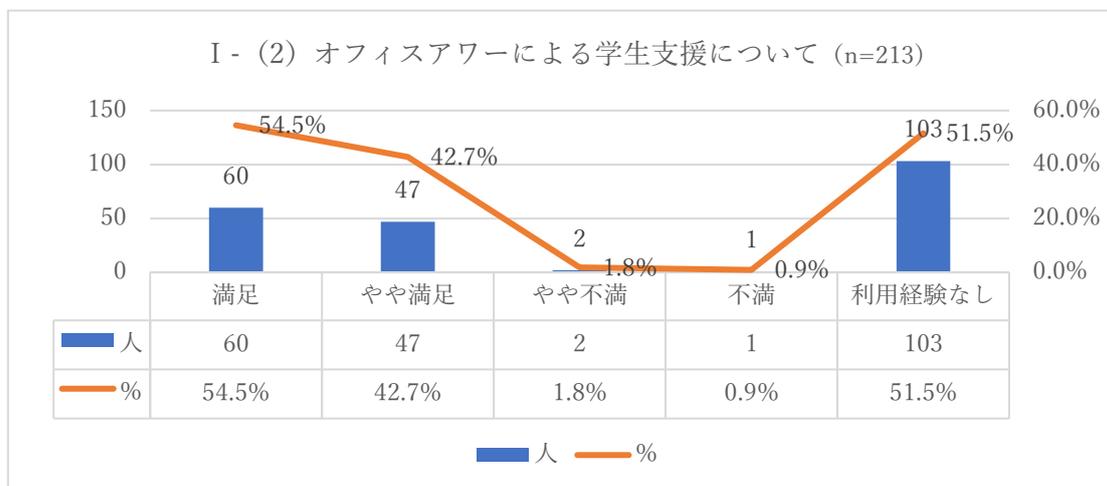


### (2) オフィスアワーによる学生支援に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は103人(51.5%) /227人で、前年(59%)より減少していたが、学生の半数はオフィスアワーの利用経験がなかった。また、それ以外の学生110人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」54.5%、「やや満足」42.7%を合わせた割合は、97.2%であった。
- ② 「不満」0.9%、「やや不満」1.8%を合わせた割合は、2.7%であった。

オフィスアワーを利用した学生は前年より増加し概ね満足しているが、半数の学生は利用経験がない。

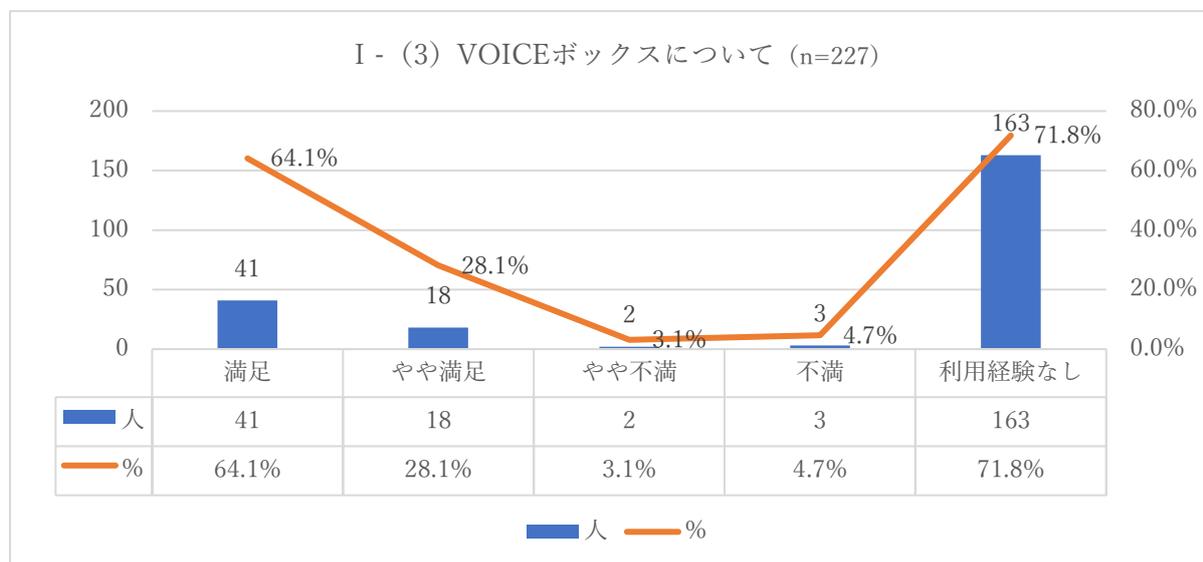


### (3) VOICE ボックスに対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は 163 人 (71.8%) /227 人で、前年 (76%) に比べて約 4 ポイント減少していた。また、それ以外の学生 64 人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」 64.1%、「やや満足」 28.1%を合わせた割合は、92.2%であった。
- ② 「不満」 4.7%、「やや不満」 3.1%を合わせた割合は、7.8%であった。

VOICE ボックスを利用した学生の割合は約 3 割で前年より増加し、9 割強の学生は満足している。

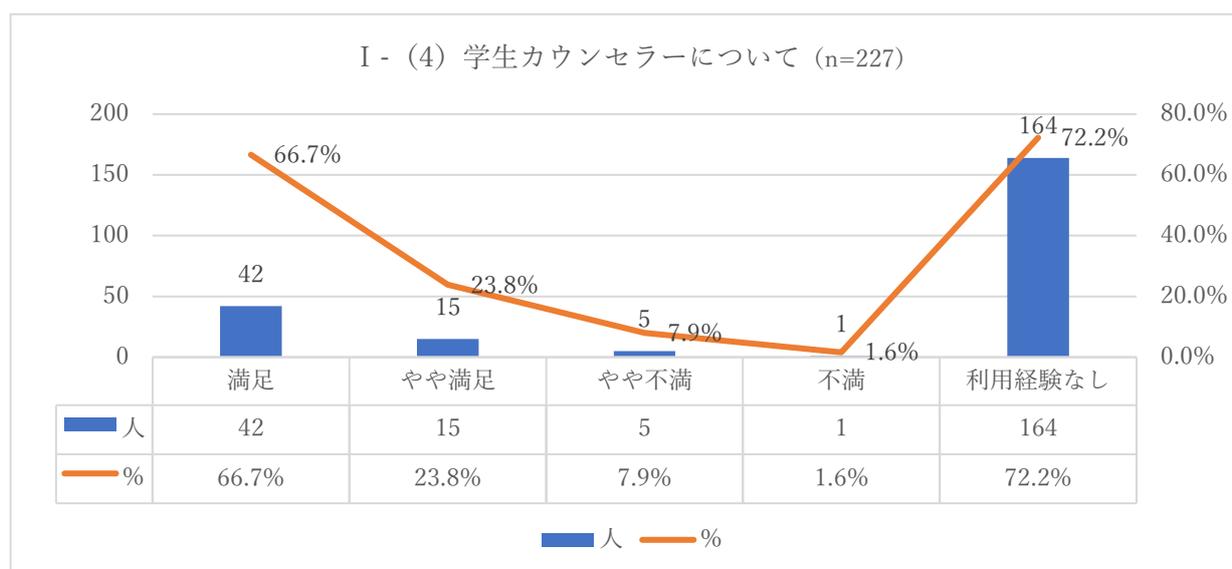


### (4) 学生カウンセラーに対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は 164 人 (72.2%) /227 人で、前年 (76%) に比べて減少していた。また、それ以外の学生 63 人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」 66.7%、「やや満足」 23.8%を合わせた割合は、90.5%であった。
- ② 「不満」 1.6%、「やや不満」 7.9%を合わせた割合は、9.5%であった。

学生カウンセラーを利用した学生の割合は微増し、9 割の学生は満足している。

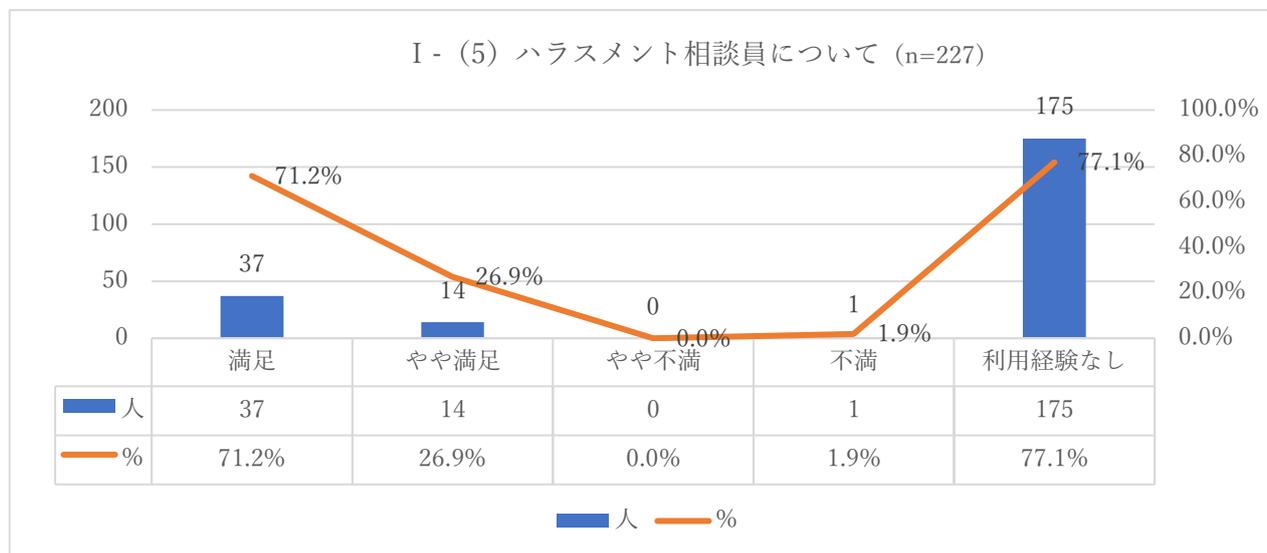


(5) ハラスメント相談員に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は175人(77.1%) / 227人で、前年(80%)よりやや減少していた。また、それ以外の学生52人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」71.2%、「やや満足」26.9%を合わせた割合は、98.1%であった。
- ② 「不満」と回答した学生は1人(1.9%)で、前年(0%)から微増していた。

ハラスメント相談員を利用した学生の割合は微増し、学生は概ね満足している。

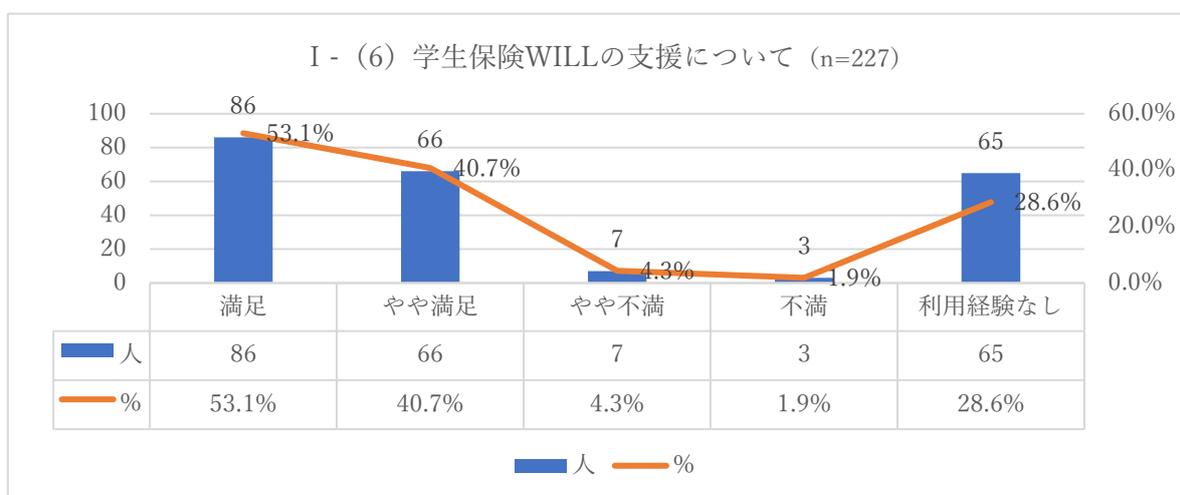


(6) 学生保険 (WILL) の支援に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は65人(28.6%) / 227人で、前年(40.0%)から約11ポイント減少していた。また、それ以外の学生162人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」53.1%、「やや満足」40.7%を合わせた割合は、93.8%であった。
- ② 「不満」1.9%、「やや不満」4.3%を合わせた割合は、6.2%であった。

学生保険 (WILL) を利用した学生の割合は増加している。これは、WILL の適応範囲に新型コロナウイルス感染症が含まれ、該当者が一定数いたことが影響要因の一つに考えられる。また、9割強の学生は満足している。



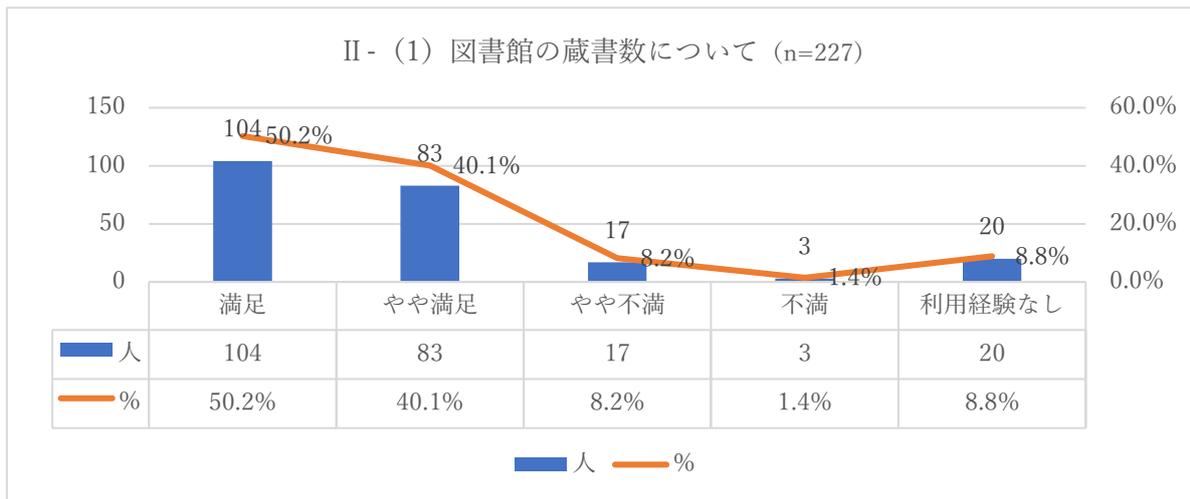
## 「II.屋内施設」に対する満足度

### (1) 図書館の蔵書数に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は20人(8.8%) / 227人で、前年(5%)から約4ポイント増加していた。また、それ以外の学生207人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」50.2%、「やや満足」40.1%を合わせた割合は、90.3%であった。
- ② 「不満」1.4%、「やや不満」8.2%を合わせた割合は、9.6%であった。
- ③ 自由記載では、学生の利用頻度が高い図書の蔵書を増やして欲しいという意見があった。

図書館を利用したことのない学生の割合は微増し、9割の学生は蔵書数に満足しているが、学生の利用頻度が高い図書の蔵書を増やして欲しいという意見がある。

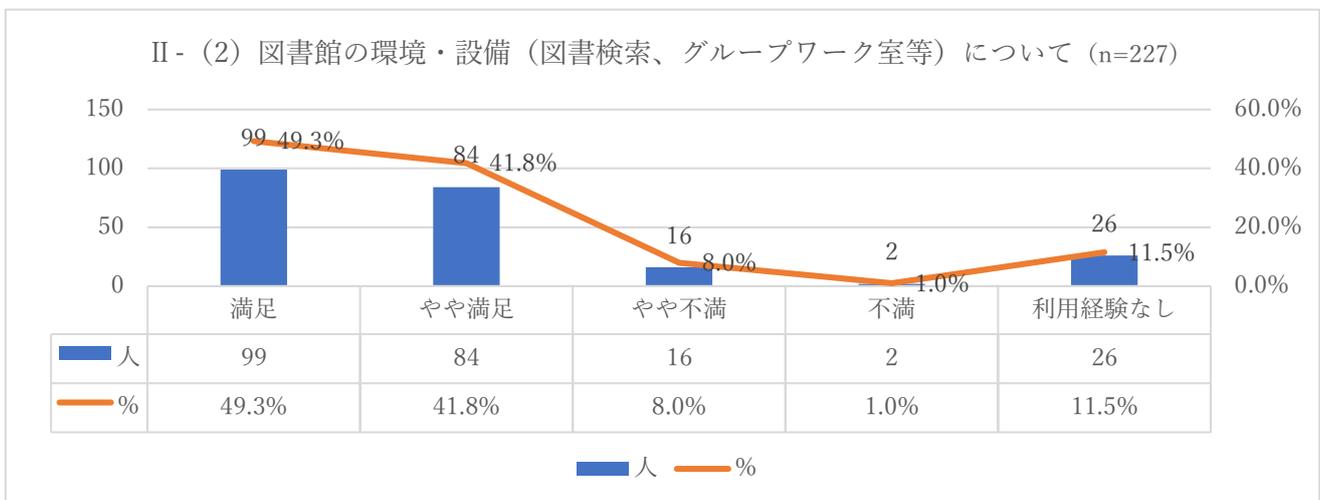


### (2) 図書館の環境・設備(図書検索、グループワーク室等)に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は26人(11.5%) / 227人で、前年(7%)から微増していた。また、それ以外の学生201人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」49.3%、「やや満足」41.8%を合わせた割合は、91.1%であった。
- ② 「不満」1.0%、「やや不満」8.0%を合わせた割合は、9.0%であった。
- ③ 自由記載では、前年と同様、空調についての意見があった。

図書検索やグループワーク室等を利用したことのない学生の割合は微増し、9割の学生は図書館の環境・設備に満足しているが、空調についての意見がある。

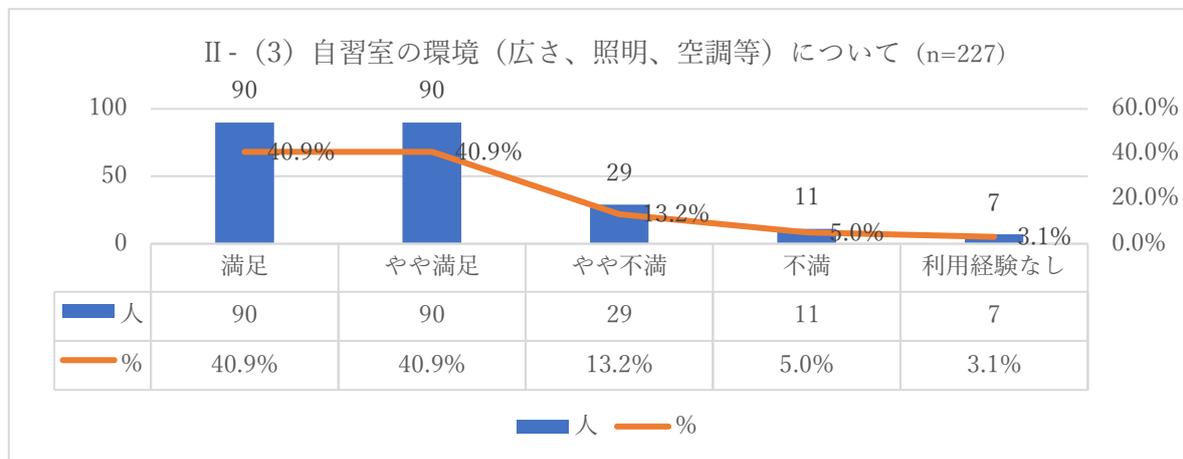


(3) 自習室の環境（広さ、照明、空調等）に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は7人（3.1%）/227人で、前年（3%）と同様であった。また、それ以外の学生220人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」「やや満足」（各40.9%）を合わせた割合は、81.8%であった。
- ② 「不満」5.0%、「やや不満」13.2%を合わせた割合は、18.2%であった。

自習室の利用経験がある学生の割合（約97%）は変わらず、8割強の学生は満足している。

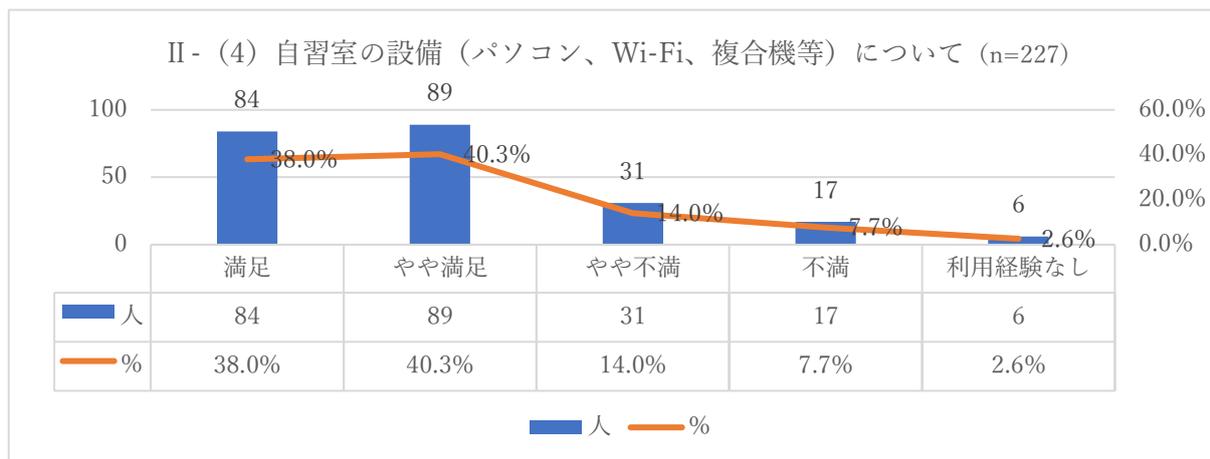


(4) 自習室の設備（パソコン、Wi-Fi、複合機等）に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は6人（2.6%）/227人で、前年（3%）からやや減少していた。また、それ以外の学生221人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」38.0%、「やや満足」40.3%を合わせた割合は、78.3%であった。
- ② 「不満」7.7%、「やや不満」14.0%を合わせた割合は、21.7%であった。
- ③ 自由記載では、前年同様、Wi-Fiが繋がらないなどの意見があった。

自習室の設備の利用経験がある学生の割合は微増し、8割弱の学生は満足しているが、Wi-Fiが繋がらないなどの意見がある。

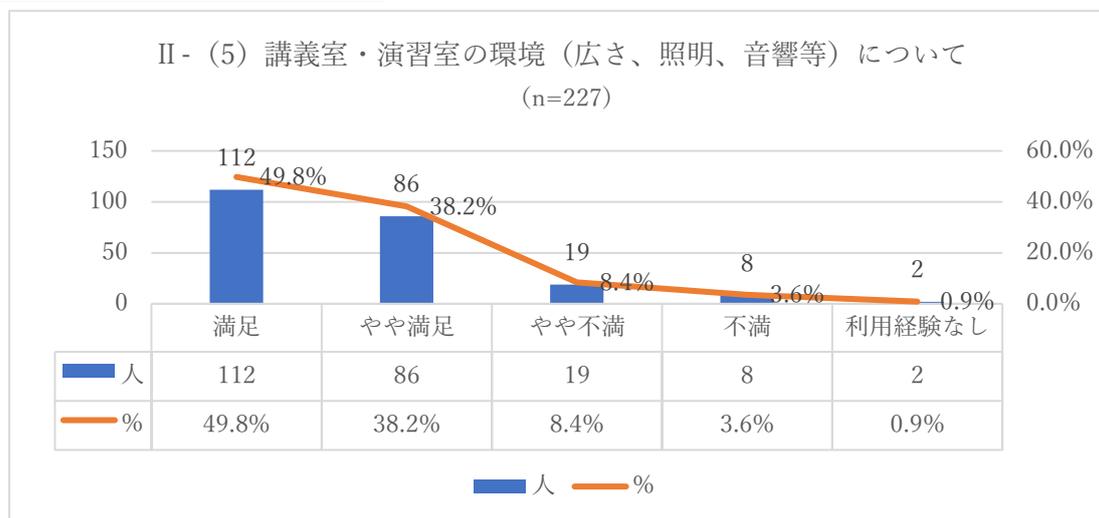


(5) 講義室・演習室の環境（広さ、照明、音響等）に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は2人（0.9%）/227人で、前年（1%）と同様であった。また、それ以外の学生225人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」49.8%、「やや満足」38.2%を合わせた割合は、88.0%であった。
- ② 「不満」3.6%、「やや不満」8.4%を合わせた割合は、12.0%であった。
- ③ 自由記載では、休日・祝日や24時間の演習室開放を求める意見があった。

講義室・演習室はほぼ全員の学生が利用し、9割弱の学生は満足しているが、休日・祝日や24時間の演習室開放を求める意見がある。

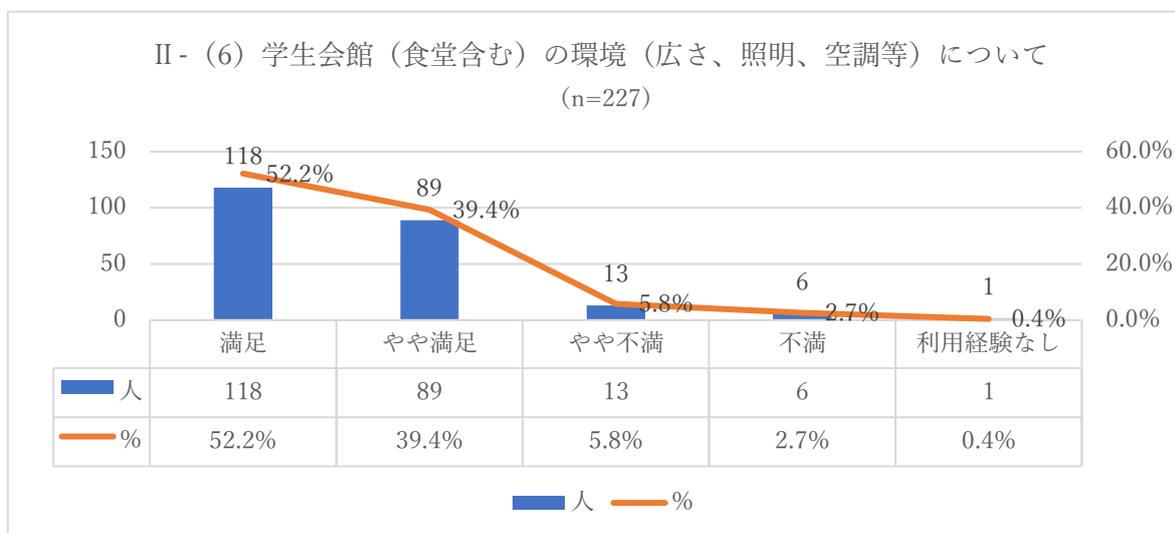


(6) 学生会館（食堂含む）の環境（広さ、照明、空調等）に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は1人（0.4%）/227人で、前年（1%）より減少していた。また、それ以外の学生226人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」52.2%、「やや満足」39.4%を合わせた割合は、91.6%であった。
- ② 「不満」2.7%、「やや不満」5.8%を合わせた割合は、8.5%であった。
- ③ 自由記載では、食品自動販売機の設置や購買を作って欲しいという意見があった。

学生会館はほぼ全員の学生が利用し、9割強の学生は満足しているが、食品自動販売機の設置や購買を作って欲しいという意見がある。

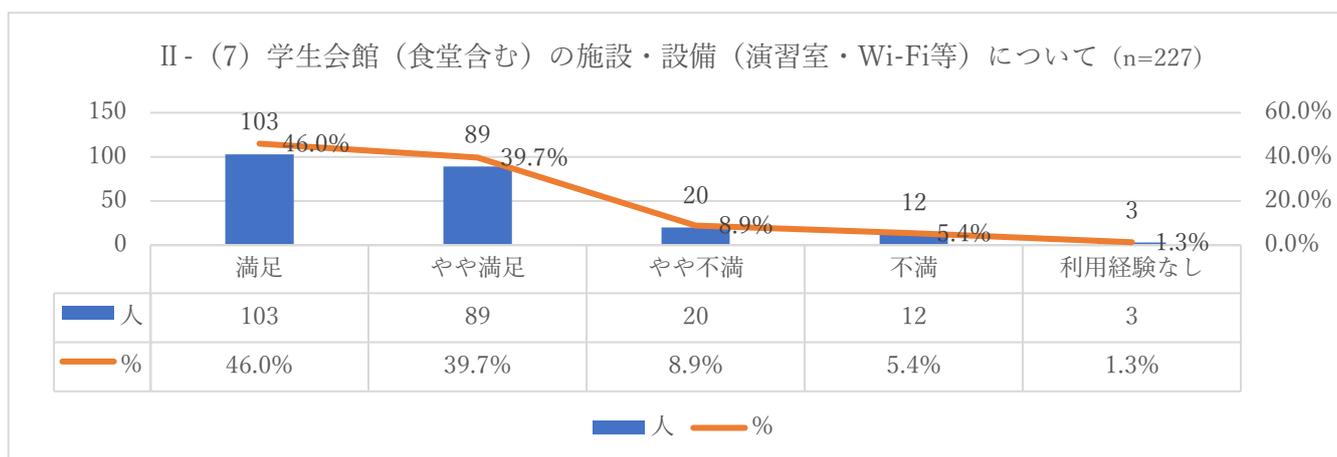


(7) 学生会館（食堂含む）の施設・設備（演習室・Wi-Fi等）に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は3人（1.3%）/227人で、前年（1%）とほぼ同様であった。また、それ以外の学生224人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」46.0%、「やや満足」39.7%を合わせた割合は、85.7%であった。
- ② 「不満」5.4%、「やや不満」8.9%を合わせた割合は、14.3%であった。
- ③ 自由記載では、ミズキホールで同時にWi-Fiが繋がりにくいことや、休日・祝日や24時間の演習室開放を求める意見があった。

学生会館の施設・設備はほぼ全員の学生が利用し、8割強の学生は満足しているが、ミズキホールで同時にWi-Fiが繋がりにくいことや、休日・祝日や24時間の演習室開放を求める意見がある。



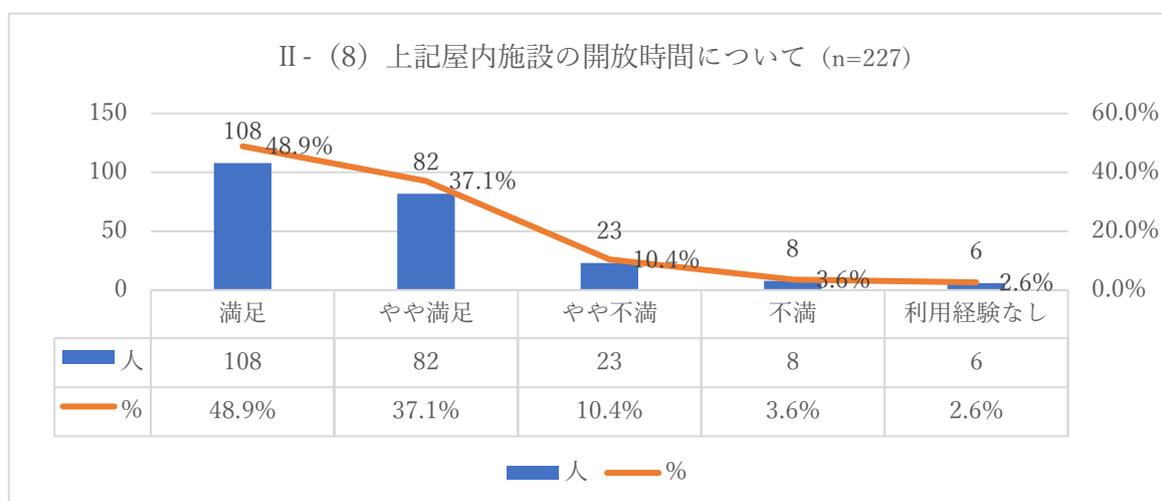
(8) 上記屋内施設の開放時間に対する満足度

図書館・講義室・自習室・演習室・学生会館の屋内施設を1つにまとめて、開放時間の設問とした。

「利用経験なし」と回答した学生は6人（2.6%）/227人で、前年（3%）より少し減少していた。また、それ以外の学生221人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」48.9%、「やや満足」37.1%を合わせた割合は、86.0%であった。
- ② 「不満」3.6%、「やや不満」10.4%を合わせた割合は、14.0%であった。
- ③ 自由記載では、図書館の土曜日の開放時間について22時までの使用を求める意見があった。

図書館・講義室・自習室・演習室・学生会館の屋内施設はほぼ全員の学生が利用し、9割弱の学生は満足しているが、図書館の土曜日の開放時間について22時までの使用を求める意見がある。



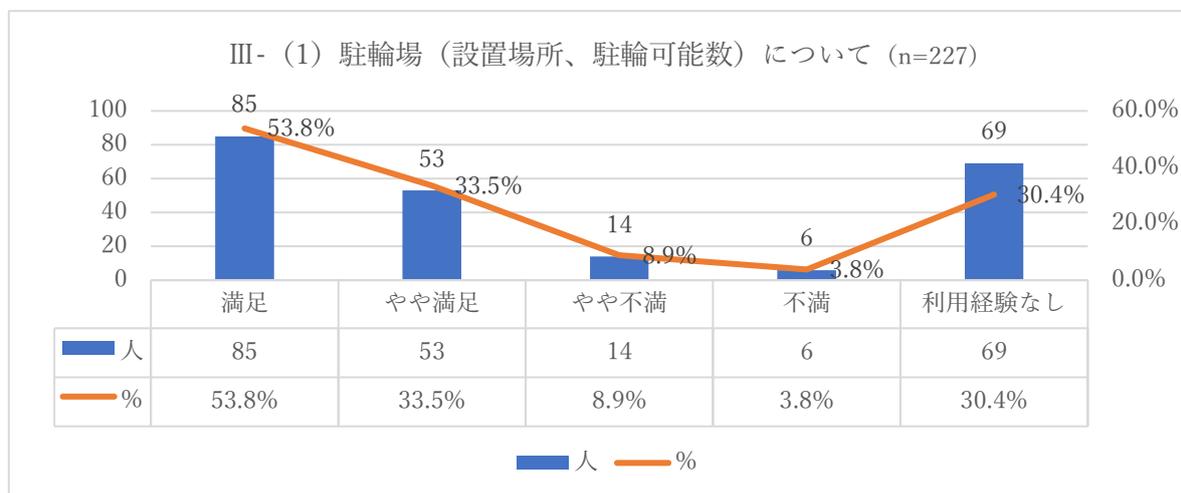
### 「Ⅲ. 屋外施設」に対する満足度

#### (1) 駐輪場（設置場所、駐輪可能数）に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は69人（30.4%）/227人で、前年（27%）より少し増加していた。また、それ以外の学生158人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」53.8%、「やや満足」33.5%を合わせた割合は、87.3%であった。
- ② 「不満」3.8%、「やや不満」8.9%を合わせた割合は、12.7%であった。

駐輪場は7割の学生が利用し、9割弱の学生は満足している。

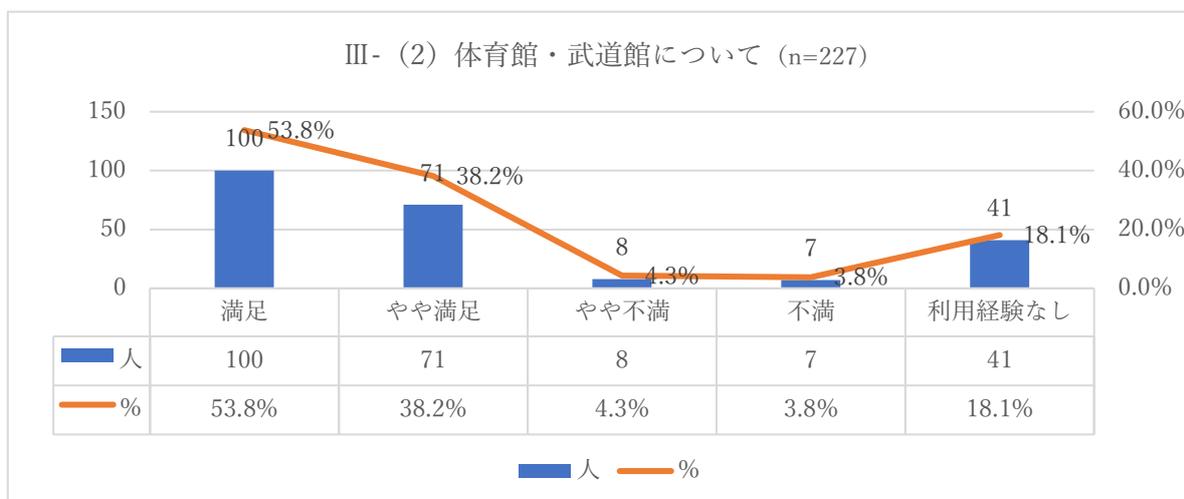


#### (2) 体育館・武道館に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は41人（18.1%）/227人で、前年（10%）より約8ポイント増加していた。また、それ以外の学生186人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」53.8%、「やや満足」38.2%を合わせた割合は、92.0%であった。
- ② 「不満」3.8%、「やや不満」4.3%を合わせた割合は、8.1%であった。
- ③ 自由記載では、体育館に空調設備の設置を求める意見があった。

体育館・武道館は8割強の学生が利用しているが、利用経験のない学生の割合が増加し、体育館に空調設備の設置を求める意見がある。これは、コロナ禍による使用制限等の影響が考えられる。

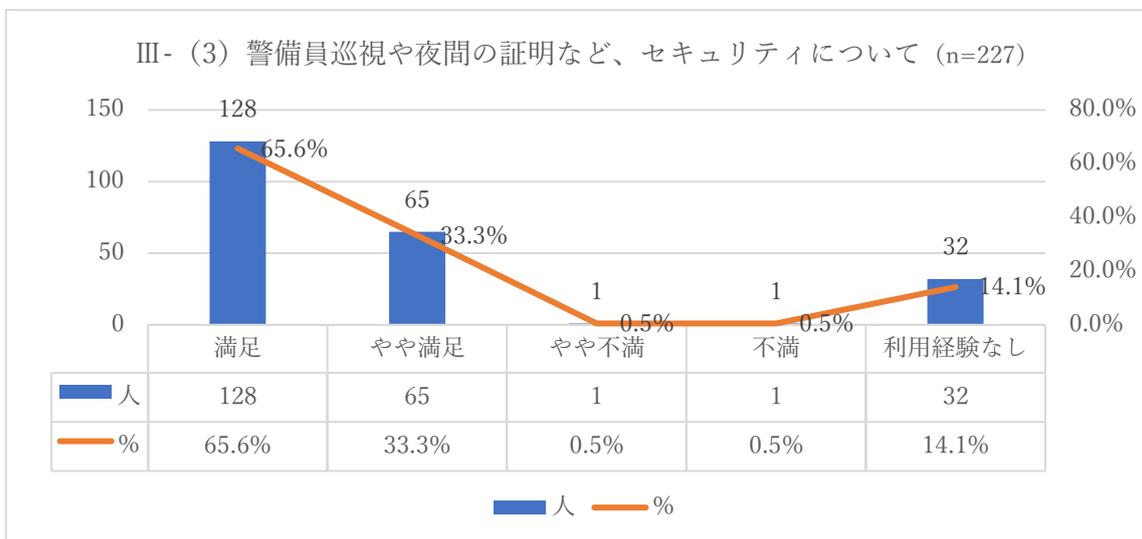


(3) 警備員巡視や夜間の照明など、セキュリティに対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は32人(14.1%) /227人で、前年(18%)より約4ポイント減少していた。また、それ以外の学生195人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」65.6%、「やや満足」33.3%を合わせた割合は、98.9%であった。
- ② 「不満」「やや不満」(各0.5%)を合わせた割合は、1.0%であった。

警備員巡視や夜間の照明などのセキュリティは9割強の学生が利用し、利用経験のある学生の割合が増え、学生は概ね満足している。



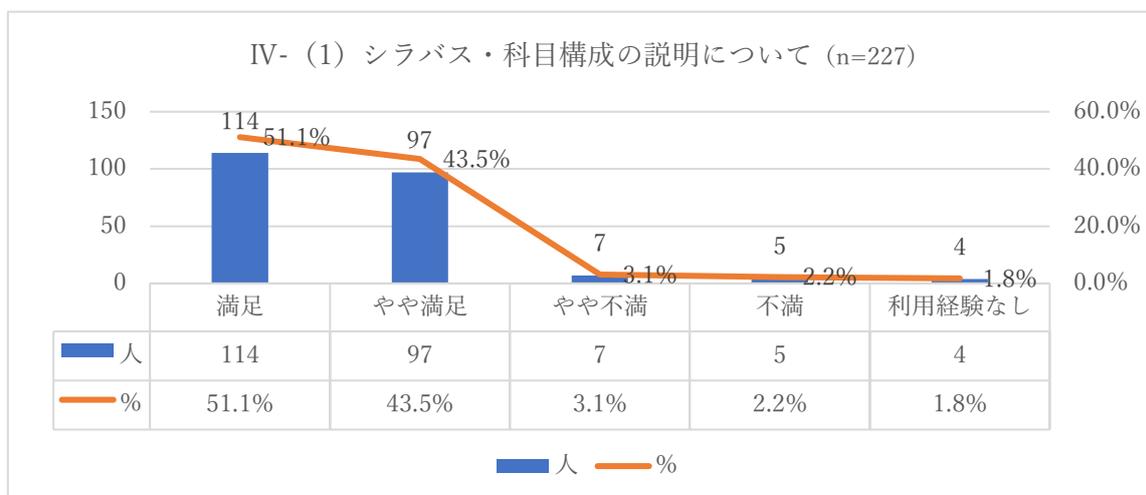
「IV. 大学生生活全般」に対する満足度

(1) シラバス・項目構成の説明に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は4人(1.8%) /227人で、前年(2%)とほぼ同様であった。また、それ以外の学生223人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」51.1%、「やや満足」43.5%を合わせた割合は、94.6%であった。
- ② 「不満」2.2%、「やや不満」3.1%を合わせた割合は、5.3%であった。

シラバス・項目構成の説明はほぼ全員の学生が利用し、9割強の学生は満足している。

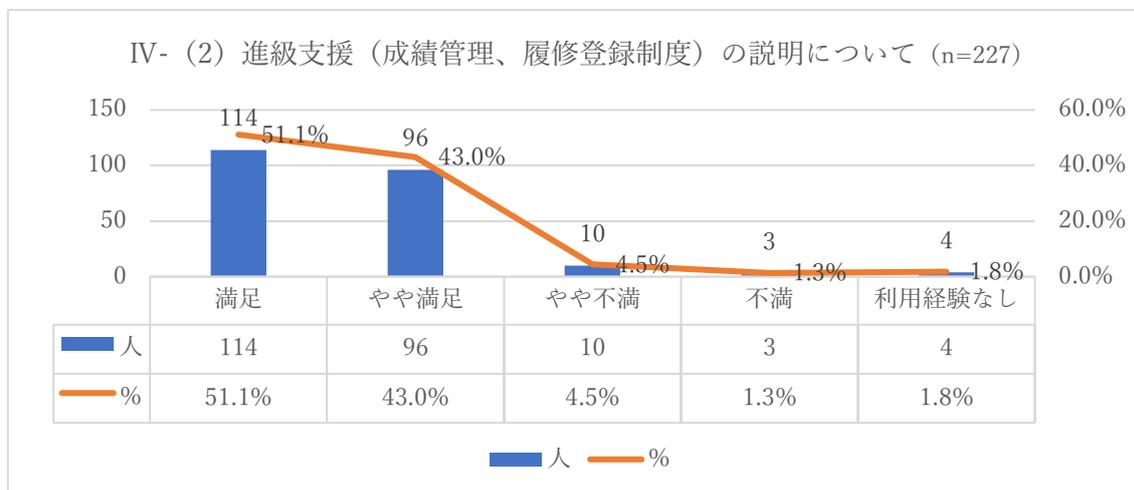


(2) 進級支援(成績管理、履修登録制度)の説明に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は4人(1.8%) /227人で、前年(3%)より少し減少していた。また、それ以外の学生223人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」51.1%、「やや満足」43.0%を合わせた割合は、94.1%であった。
- ② 「不満」1.3%、「やや不満」4.5%を合わせた割合は、5.8%であった。

進級支援の利用経験がある学生の割合が増え、ほぼ全員の学生が経験し、9割強の学生は満足している。



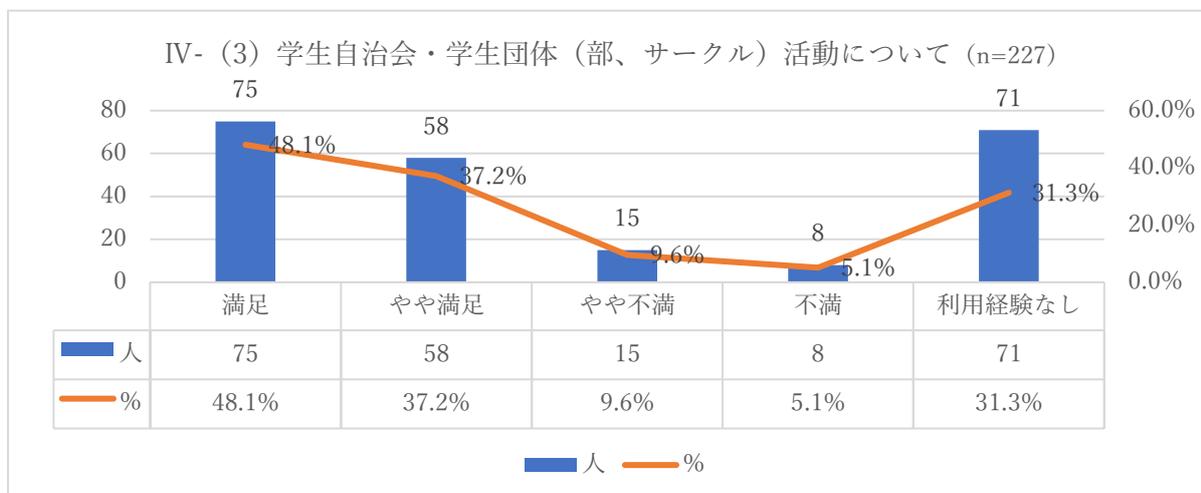
(3) 学生自治会・学生団体(部、サークル)活動に対する満足度

この項目は、今年度調査で新たに加えた項目である。

「利用経験なし」と回答した学生は71人(31.3%) /227人であった。また、それ以外の学生156人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」48.1%、「やや満足」37.2%を合わせた割合は、85.3%であった。
- ② 「不満」5.1%、「やや不満」9.6%を合わせた割合は、14.7%であった。

学生自治会・学生団体(部、サークル)活動の経験がない学生は約3割で、8割強の学生は満足している。学生間交流の機会が少ないことが窺えるが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う部・サークル活動の制限等による影響が考えられる。

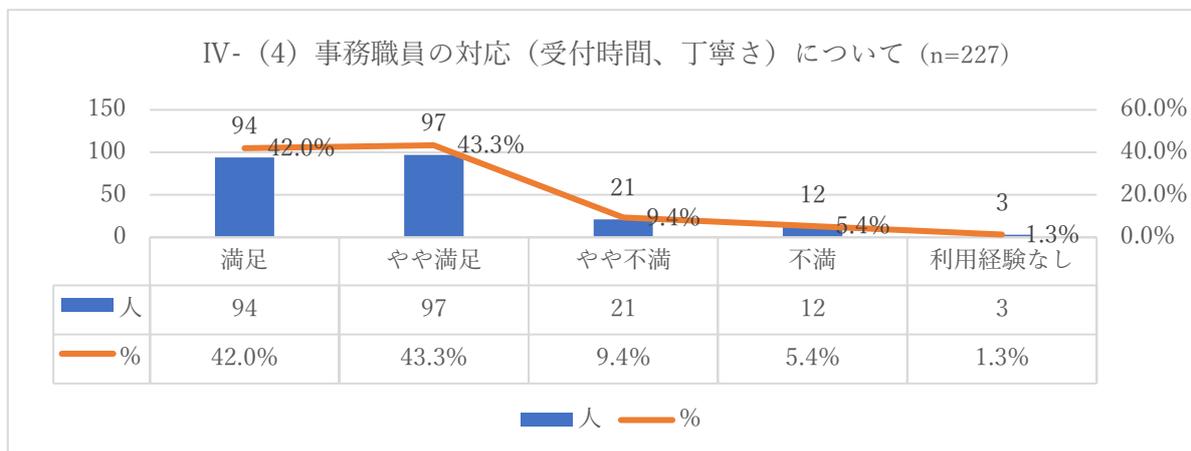


(4) 事務職員の対応(受付時間、丁寧さ)に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は3人(1.3%) /227人で、前年(0.3%)より微増していた。また、それ以外の学生224人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」42.0%、「やや満足」43.3%を合わせた割合は、85.3%であった。
- ② 「不満」5.4%、「やや不満」9.4%を合わせた割合は、14.8%であった。
- ③ 自由記載では、前年度と同様、5限目以降の受付時間延長を求める意見があった。

事務職員の対応はほぼ全員の学生が経験し、8割強の学生は満足しているが、5限目以降の受付時間延長を求める意見がある。

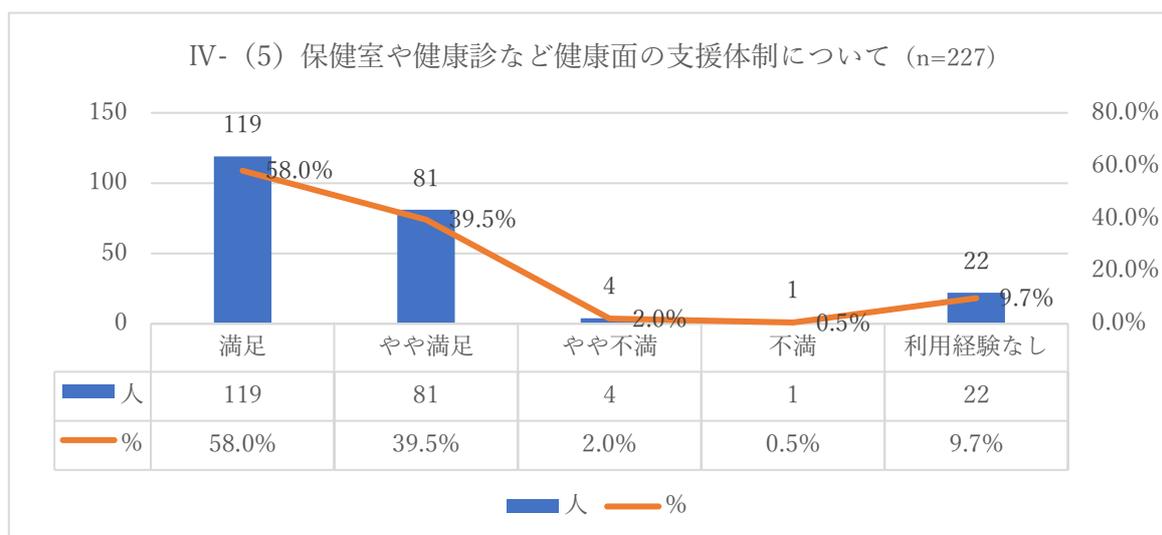


(5) 保健室や健康診断など健康面の支援体制に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は22人(9.7%) /227人で、前年(12%)より少し減少していた。また、それ以外の学生205人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」58.0%、「やや満足」39.5%を合わせた割合は、97.5%であった。
- ② 「不満」0.5%、「やや不満」2.0%を合わせた割合は、2.5%であった。

保健室や健康診断など健康面の支援体制は9割の学生が利用し、利用経験のある学生の割合が微増し、学生は概ね満足している。

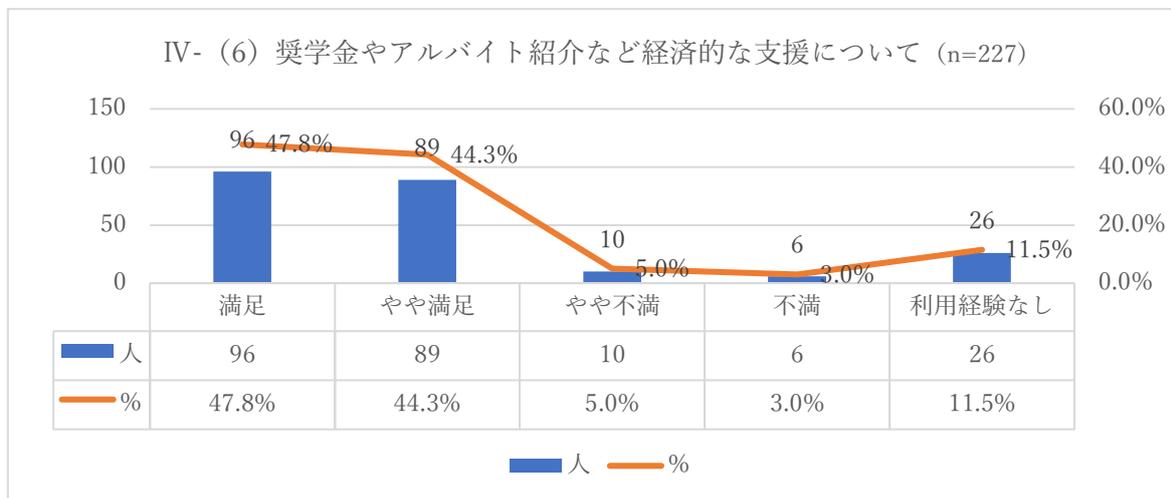


(6) 奨学金やアルバイト紹介など経済的な支援に対する満足度

「利用経験なし」と回答した学生は26人(11.5%) /227人で、前年(9%)より少し増加していた。  
また、それ以外の学生201人について、満足度の内訳を以下に示した。

- ① 「満足」47.8%、「やや満足」44.3%を合わせた割合は、92.1%であった。
- ② 「不満」3.0%、「やや不満」5.0%を合わせた割合は、8.0%であった。

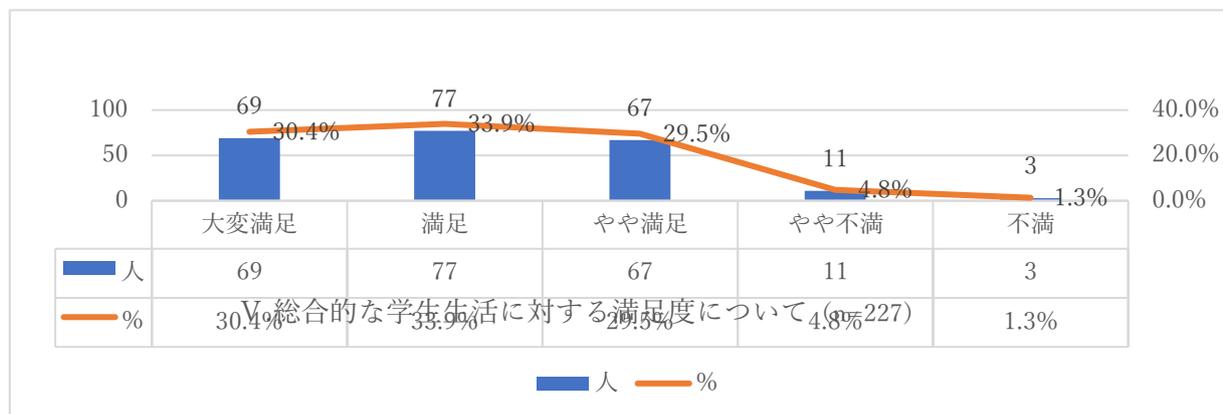
奨学金やアルバイト紹介などの利用経験のある学生は9割で少し減少傾向にあり、9割強の学生は満足している。



IV. 総合的な学生生活に対する満足度

- ① 「大変満足」30.4%、「満足」33.9%、「やや満足」29.5%を合わせた割合は93.8%で、前年の94%（「大変満足」28%、「満足」42%、「やや満足」24%）とほぼ同様であった。
- ② 「不満」1.3%、「やや不満」4.8%を合わせた割合は、6.1%であった。

9割強の学生は、総合的な学生生活に満足している。

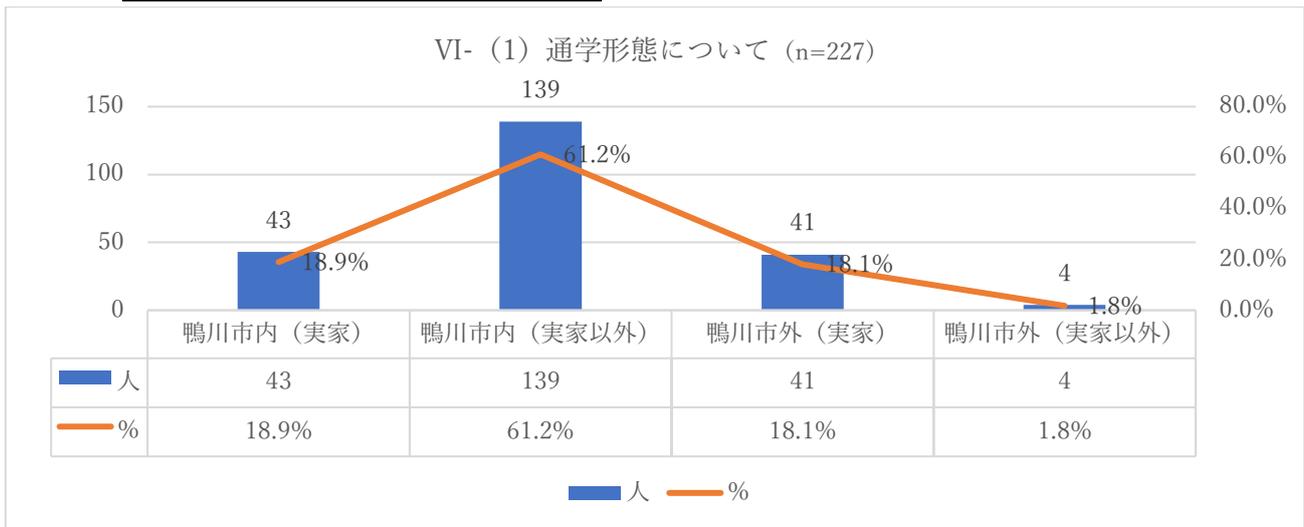


## 「VI. 現在の生活状況」に関する実態

### (1) 通学形態について

- ① 鴨川市内に居住している学生は、「鴨川市内（実家）」18.9%、「鴨川市内（実家以外）」61.2%を合わせて80.1%であり、前年の80%（「鴨川市内（実家）」17%、「鴨川市内（実家以外）」63%）とほぼ同じ割合であった。そのうち、「鴨川市内（実家以外）」の割合が微増していた。
- ② 鴨川市外に居住している学生は、「鴨川市外（実家）」18.1%、「鴨川市外（実家以外）」1.8%を合わせて19.9%であり、前年の20%（「鴨川市外（実家）」18%、「鴨川市外（実家以外）」2%）とほぼ同じ割合であった。

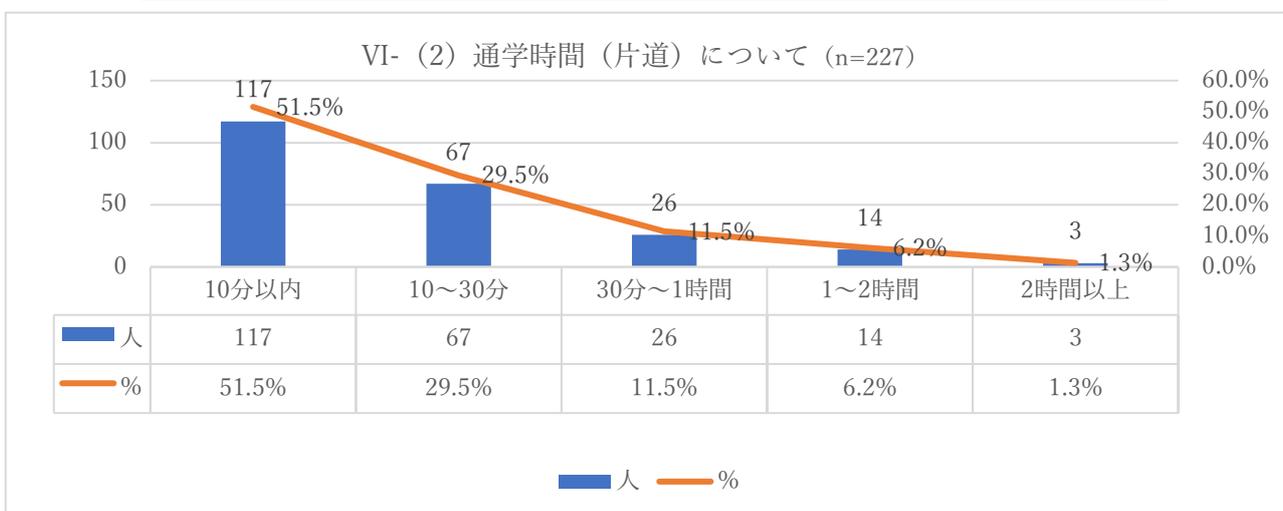
鴨川市内に居住している学生は8割で、実家以外の割合が微増し、鴨川市外に居住している学生はほとんどが実家から通学している。



### (2) 通学時間（片道）について

- ① 通学時間（片道）が30分以内の学生は、「10分以内」51.5%、「10～30分以内」29.5%を合わせて81.0%であり、前年の82%（「10分以内」53%、「10～30分以内」29%）とほぼ同じ割合であった。
- ② 通学時間（片道）が30分以上の学生は、「30分～1時間」11.5%、「1～2時間」6.2%、「2時間以上」1.3%を合わせて19%であり、前年の17%（「30分～1時間」8%、「1～2時間」8%、「2時間以上」1%）より少し減少していた。

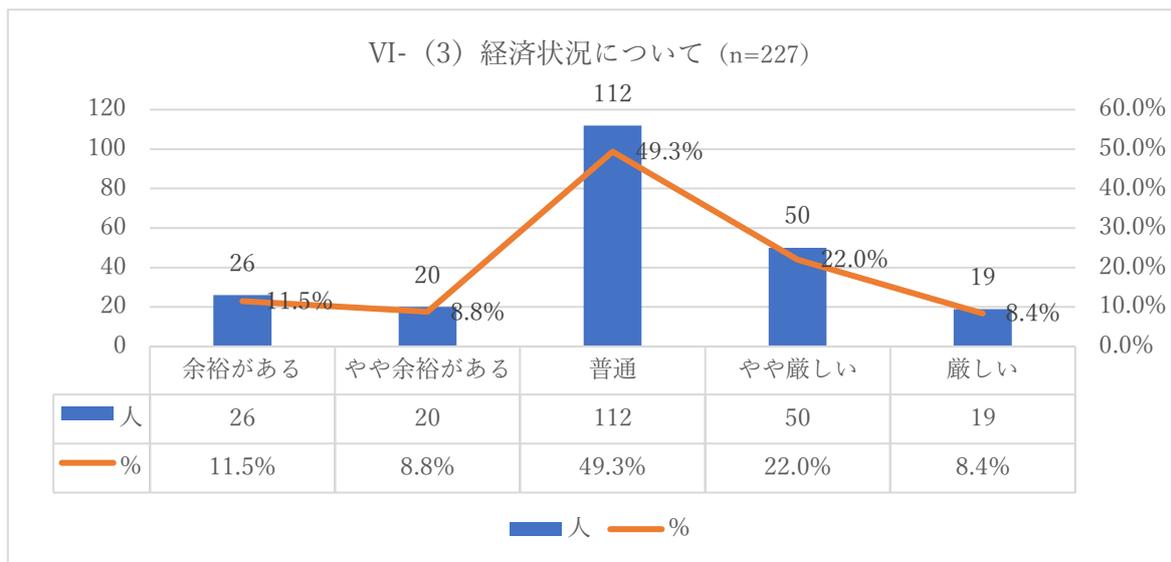
通学時間（片道）が30分以内の学生は8割で、1時間以内の学生は9割である。



(3) 経済状況について

- ① 「余裕がある」11.5%、「やや余裕がある」8.8%を合わせた割合は20.3%であり、前年の18%（「余裕がある」10%、「やや余裕がある」8%）より減少していた。
- ② 「普通」49.3%が最も多かったが、前年の52%に比べて約3ポイント減少していた。
- ③ 「厳しい」8.4%、「やや厳しい」22.0%を合わせた割合は30.4%であり、前年の30%（「厳しい」11%、「やや厳しい」19%）とほぼ同じ割合であった。そのうち、「やや厳しい」の割合が微増していた。

経済状況が「普通」の学生は半数弱で最も多く、「厳しい」「やや厳しい」が3割、「余裕がある」「やや余裕がある」が2割を占め、「やや厳しい」の割合が微増している。

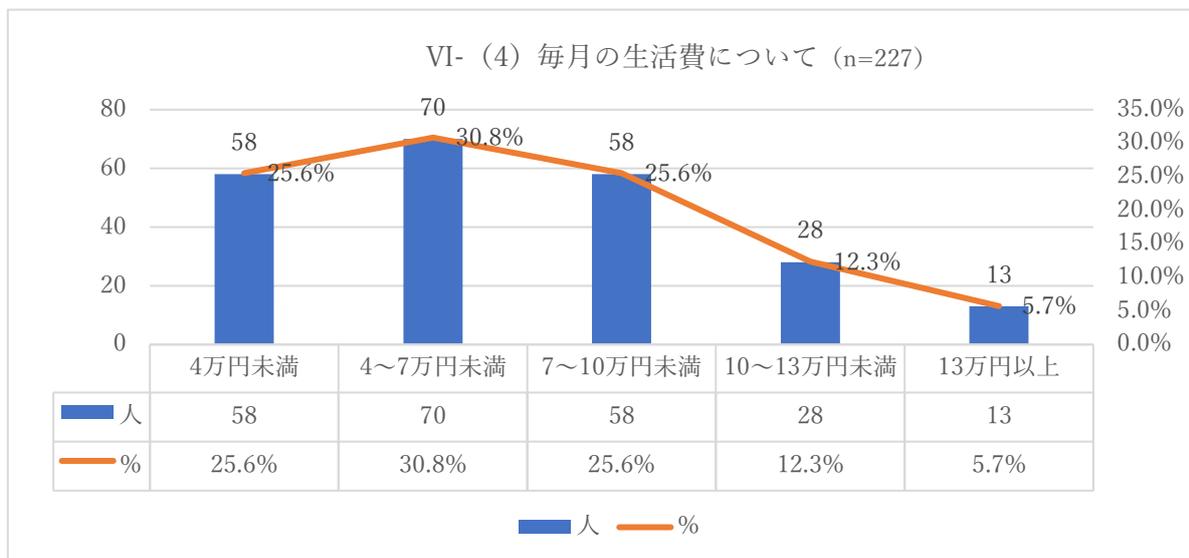


(4) 毎月の生活費（住居費、水道・光熱費、食費、交通費、交際費など）について

この項目は、今年度調査で新たに加えた項目である。

- ① 毎月の生活費は、「4～7万円未満」と回答した学生が30.8%で最も多く、次いで「4万円未満」「7～10万円未満」が各25.6%、「10～13万円未満」12.3%、「13万円以上」5.7%の順であった。

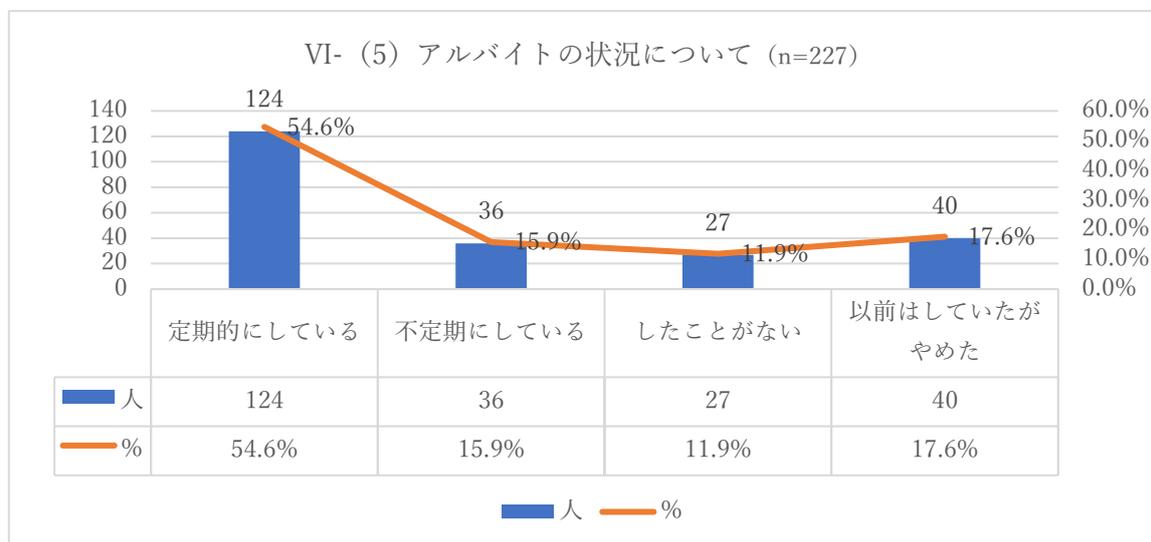
毎月の生活費が「4～7万円未満」の学生は3割で最も多く、約8割の学生は10万円未満である。



(5) アルバイトの状況について

- ① 「定期的に行っている」54.6%、「不定期に行っている」15.9%を合わせた割合は70.5%であり、前年の71%（「定期的に行っている」55%、「不定期に行っている」16%）とほぼ同様であった。
- ② 「以前はしていたがやめた」17.6%を加えると、アルバイト経験のある学生の割合は88.1%であった。
- ③ 「したことがない」と回答した学生は11.9%であり、前年の9%より微増していた。

定期的にアルバイトをしている学生は過半数で、不定期も併せると7割の学生がアルバイトをしている。その一方で、アルバイトをしたことがない学生は約1割で、微増している。

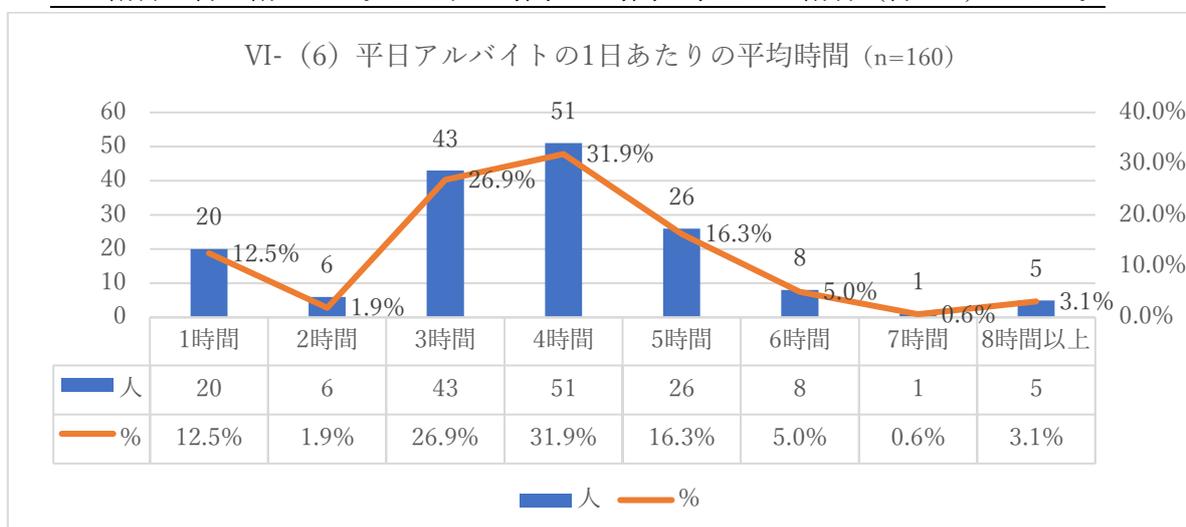


(6) 平日アルバイトの1日あたりの平均時間

上記VI- (5) で、アルバイトを「定期的に行っている」「不定期に行っている」と回答した学生160名から回答を得た。前年度調査では平日と休日を区別せずアルバイトの1日当たりの時間を調査したが、今年度は平日と休日を区別して調査した。

- ① 「4時間」31.9%が最も多く、次いで「3時間」26.9%、「5時間」16.3%「1時間」12.5%であり、第1位から第4位までを合わせた割合は87.6%であった。
- ② これ以外では、割合の多い順に「6時間」5.0%、「8時間以上」3.1%、「2時間」1.9%、「7時間」0.6%であった。

平日アルバイトの1日あたりの平均時間が「4時間」の学生は約3割で最も多く、5時間までの学生の割合は約9割である。また、6時間～8時間の学生は1割弱（約9%）である。

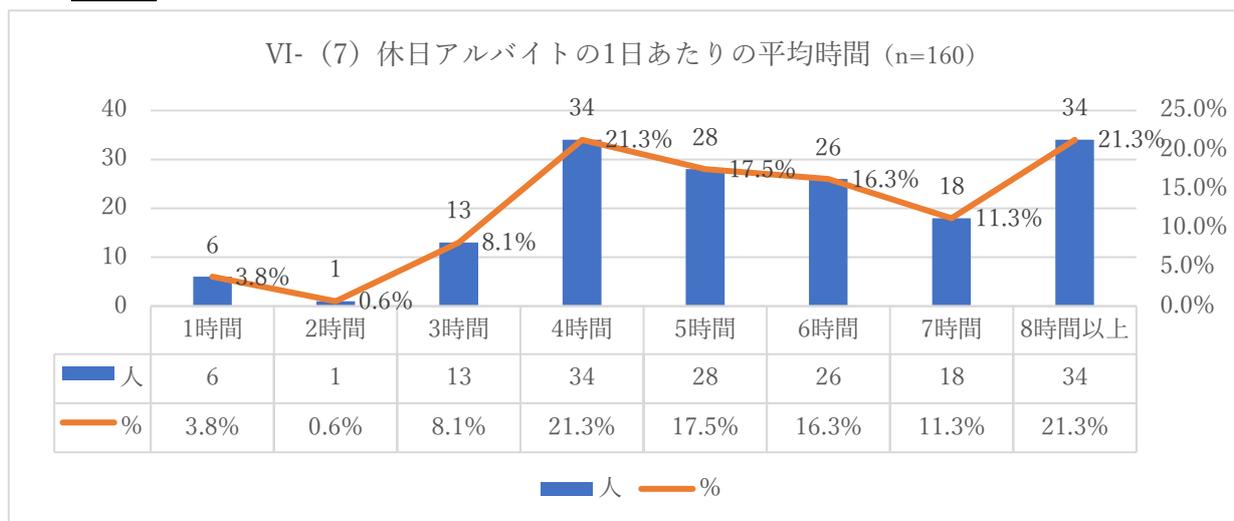


(7) 休日アルバイトの1日あたりの平均時間

上記VI- (5) で、アルバイトを「定期的に行っている」「不定期に行っている」と回答した学生 160 名から回答を得た。

- ① 「4 時間」「8 時間以上」が同率の 21.3%で最も多く、次いで「5 時間」17.5%、「6 時間」16.3%、「7 時間」11.3%であり、第 1 位から第 5 位までを合わせた割合は 87.7%であった。
- ② これ以外では、割合の多い順に「3 時間」8.1%、「1 時間」3.8%、「2 時間」0.6%で、合わせると 12.5%であった。

休日アルバイトの1日あたりの平均時間が「4 時間」「8 時間以上」の学生はそれぞれ約 2 割で最も多く、5 時間～7 時間の学生を合わせると 9 割弱を占める。また、1 時間～3 時間の学生は 1 割強である。

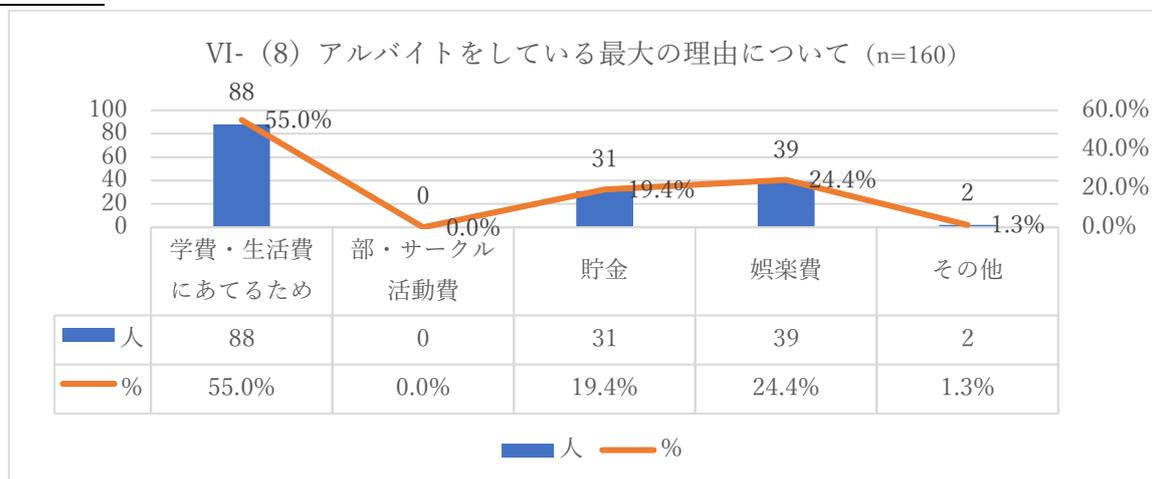


(8) アルバイトをしている最大の理由について

上記VI- (5) で、アルバイトを「定期的に行っている」「不定期に行っている」と回答した学生 160 名から回答を得た。

- ① 「学費・生活費にあてるため」55.0%が最も多かったが、前年の 65%より 10 ポイント減少していた。
- ② 次いで、多い順に「娯楽費」24.4%、「貯金」19.4%、「その他」2.0%であり、「その他」の内訳は将来のため、息抜きであった。

アルバイトの最大の理由は「学費・生活費」が過半数を占め最も多く、娯楽費と合わせて約 8 割(79.4%)である。

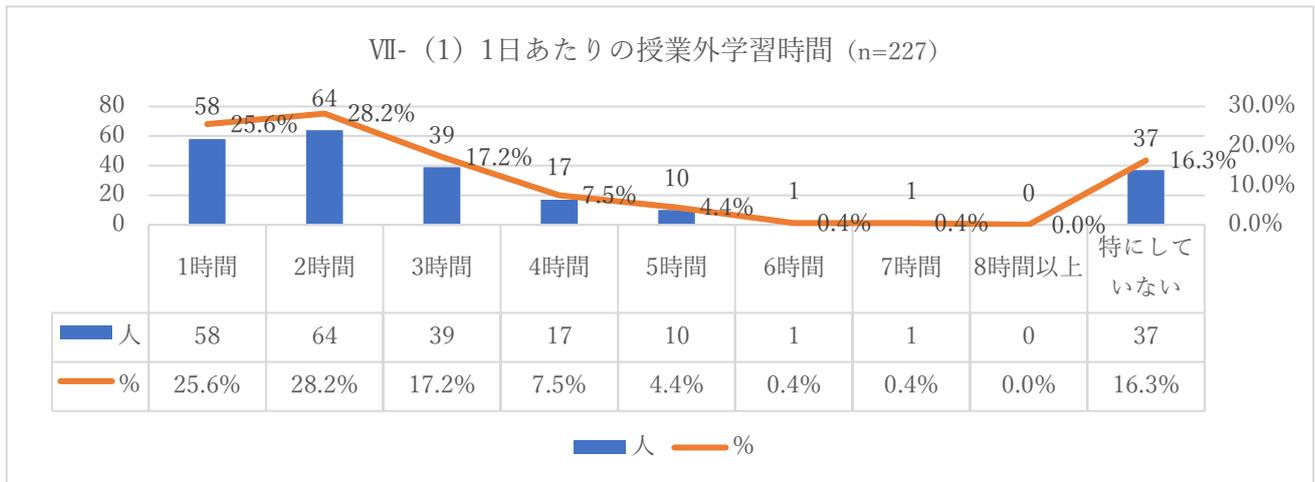


## 「VII. 修学の状況」に関する実態

### (1) 平日の1日あたりの授業外学習時間について

- ① 「2時間」28.2%が最も多く、次いで「1時間」25.6%、「3時間」17.2%であり、第1位から第3位までを合わせた割合は71.0%で、前年の75%（「1時間」30%、「2時間」28%、「3時間」17%）より4ポイント減少していた。
- ② 「特にしていない」16.3%は第4位で、前年（15%）と同様の順位であったが、割合は微増していた。
- ③ これ以外では、割合の多い順に「4時間」7.5%、「5時間」4.4%、「6時間」「7時間」は同率で0.4%、「8時間以上」は0%であった。

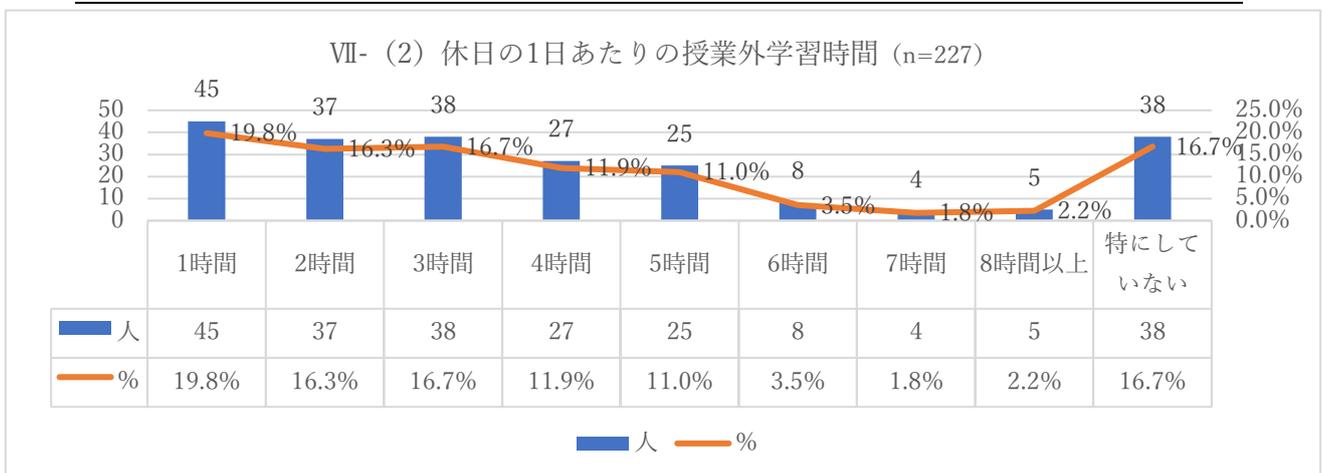
平日の1日あたりの授業外学習時間が「2時間」の学生は3割弱で最も多いが減少傾向にあり、3時間までの学生が約7割を占める。一方、「特にしていない」学生は2割弱（16.3%）である。



### (2) 休日の1日あたりの授業外学習時間について

- ① 「1時間」19.8%が最も多く、次いで「3時間」「特にしていない」が同率で16.7%、「2時間」16.3%であり、第1位から第4位までを合わせた割合は69.5%で、前年の76%（「1時間」22%、「2時間」19%、「特にしていない」18%、「3時間」17%）より約6ポイント減少していた。
- ② これ以外では、割合の多い順に「4時間」11.9%、「5時間」11.0%、「6時間」3.5%、「8時間以上」2.2%、「7時間」1.8%であった。と回答した学生は16.7%であった。

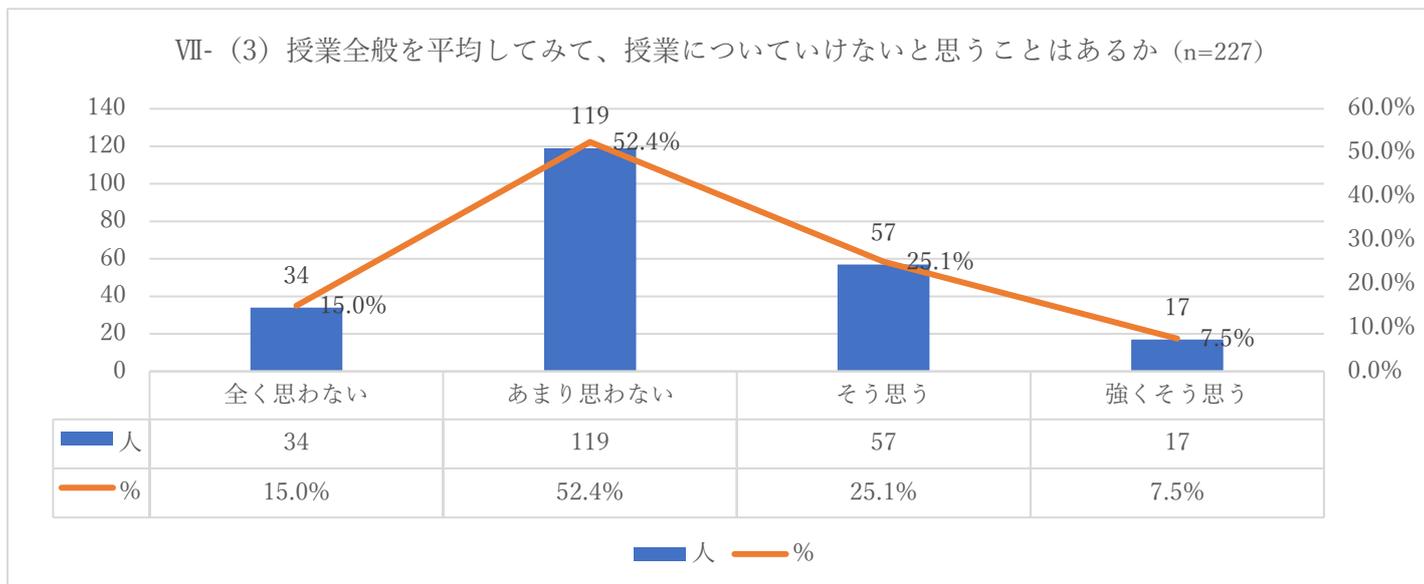
休日の1日あたりの授業外学習時間が「1時間」の学生は2割弱で最も多いが減少傾向にあり、3時間までの学生が過半数を占める。一方、「特にしていない」学生は2割弱（16.7%）である。



(3) 授業全般を平均してみたて、授業についていけないと思うこと

- ① 「全く思わない」15.0%、「あまり思わない」52.4%を合わせた割合は67.4%であり、前年の76%（「全く思わない」17%、「あまり思わない」59%）より約9ポイント減少していた。
- ② 「強くそう思う」7.5%、「そう思う」25.1%を合わせた割合は32.6%であり、前年の25%（「強くそう思う」4%、「そう思う」21%）より約8ポイント増加していた。

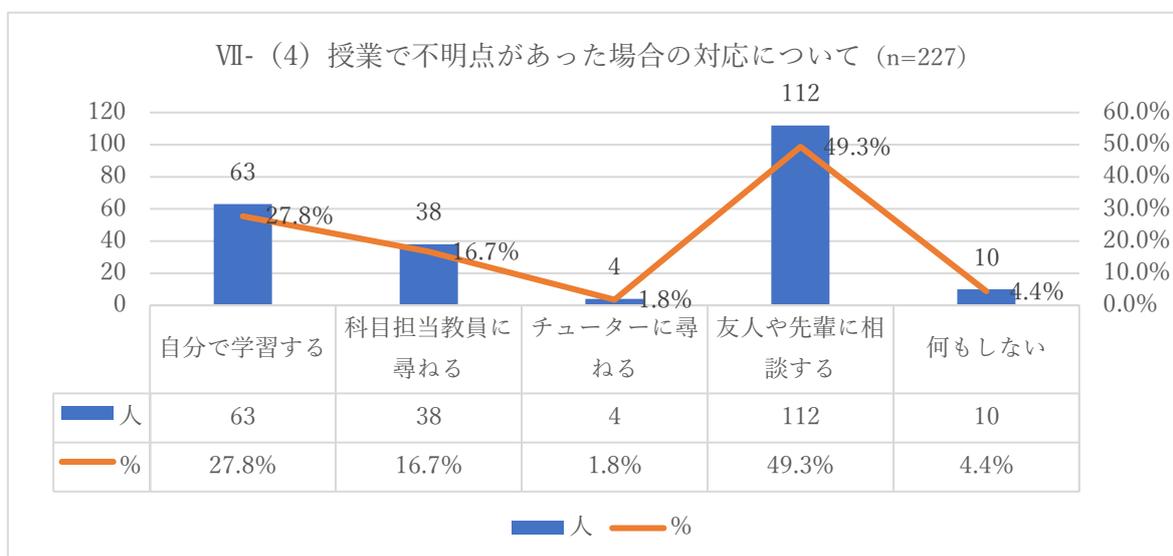
授業全般を平均して67.4%の学生は授業に遅れを感じてはいないが、その割合は減少している。授業についていけないと思う学生の割合は3割強で、その割合は増加している。



(4) 授業で不明点があった場合の対応について

- ① 「友人や先輩に相談する」49.3%が最も多く、前年の41%より約8ポイント増加していた。
- ② 「自分で学習する」27.8%が次に多く、前年の42%より約12ポイント減少していた。
- ③ 「科目担当教員に尋ねる」16.7%が3番目に多く、前年の8%より倍増していた。
- ④ それ以外は、「チューターに尋ねる」1.8%、「何もしない」4.4%であった。

授業で不明点があった場合、友人や先輩に相談する学生は約半数で前年より大幅に増加し、自分で学習する学生は3割弱で大幅に減少していた。科目担当教員に尋ねる学生は2割弱で倍増している。



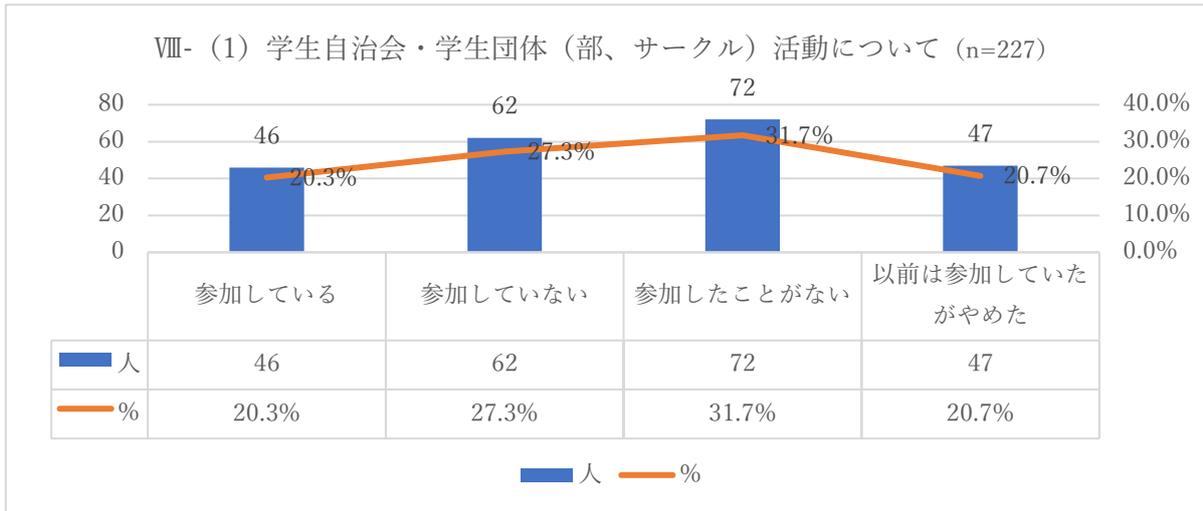
## 「Ⅷ. 学生自治会・学生団体（部、サークル）活動」に関する実態

### (1) 学生自治会・学生団体（部、サークル）活動の参加状況について

この項目は、今年度調査で新たに加えた項目である。

- ① 「参加したことがない」31.7%が最も多く、次いで順に「参加していない」27.3%、「以前は参加していたがやめた」20.7%、「参加している」20.3%であった。
- ② 「以前は参加していたがやめた」20.7%、「参加している」20.3%を合わせた割合は41.0%であり、参加経験のある学生は約4割であった。

学生自治会・学生団体（部、サークル）活動に参加したことがない学生が約3割で最も多く、逆に参加している学生は約2割で最も少ない。また、参加経験のある学生は約4割である。

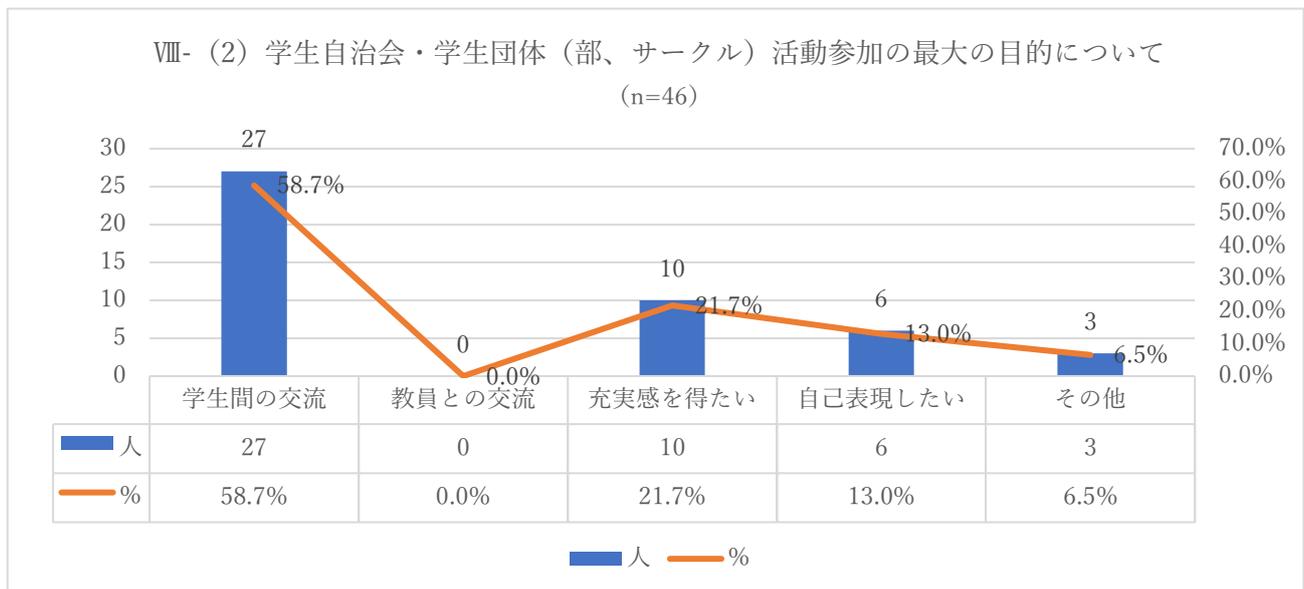


### (2) 学生自治会・学生団体（部、サークル）活動参加の最大の目的について

この項目は、今年度調査で新たに加えた項目である。上記VIII- (1) で、学生自治会・学生団体（部、サークル）活動に「参加している」と回答した学生46名から回答を得た。

- ① 「学生間の交流」58.7%が最も多く、次いで順に「充実感を得たい」21.7%、「自己表現したい」13.0%、「その他」6.5%であり、「その他」の内訳は体を動かしたい、自治会のイベント（ビンゴ大会等）で楽しいイベントがあることであった。

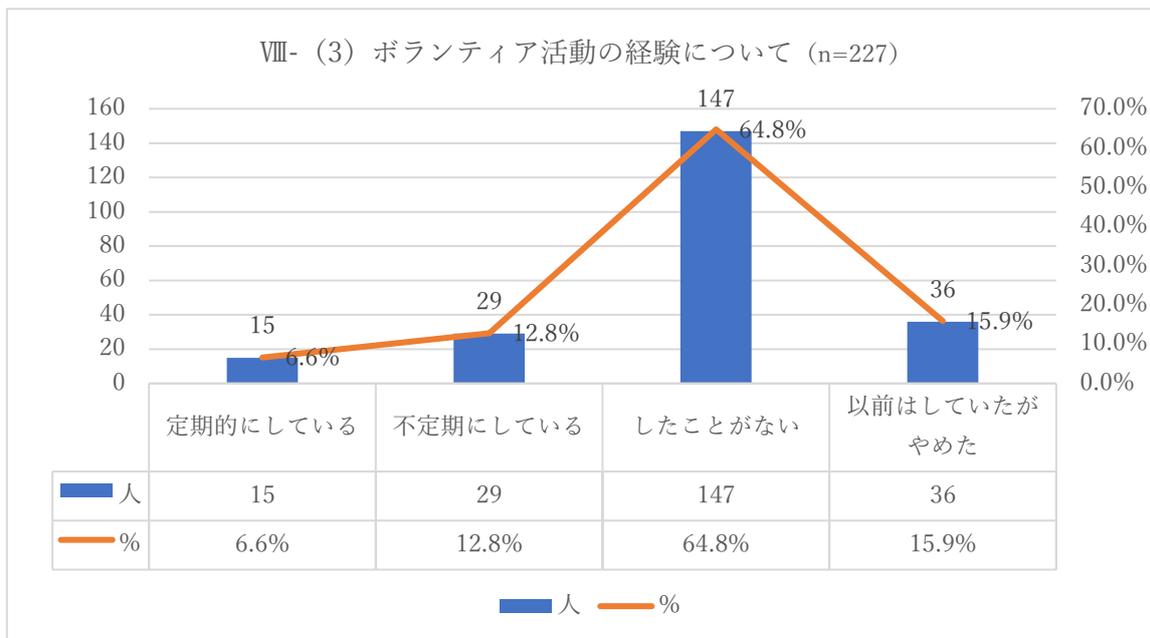
学生自治会・学生団体（部、サークル）活動参加の目的は、学生間の交流が約6割で最も多い。



(3) ボランティア活動の経験について

- ① 「したことがない」64.8%が最も多く、前年の58%より約7ポイント増加していた。
- ② 「以前はしていたがやめた」15.9%は次に多く、前年の25%より約9ポイント減少していた。
- ③ 「不定期にしている」12.8%は第3位で、前年の11%より少し減少していた。
- ④ 「定期的にしている」6.6%は最も少なかったが、前年の5%より微増していた。

ボランティア活動をしたことがない学生は6割強で前年より増加し、以前していた・不定期にしている・定期的にしている学生は3割強である。

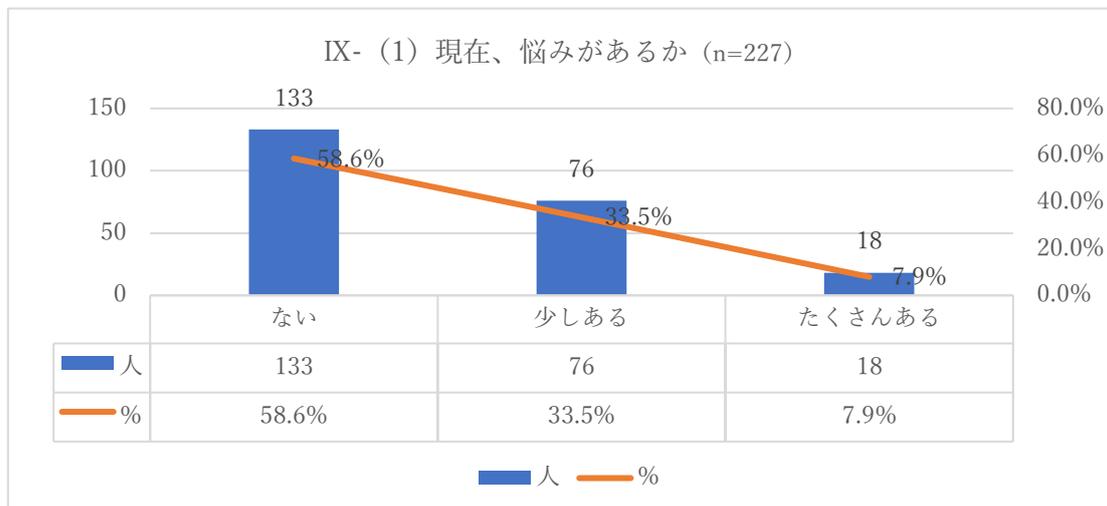


「IX. 学生生活の悩み」に関する実態

(1) 現在、悩みがあるか

- ① 「ない」58.6%が最も多く、前年の57%より微増していた。
- ② 「少しある」33.5%、「たくさんある」7.9%の順に多く、合わせると41.4%であり、前年の42%（「少しある」35%、「たくさんある」7%）とほぼ同じ割合であった。

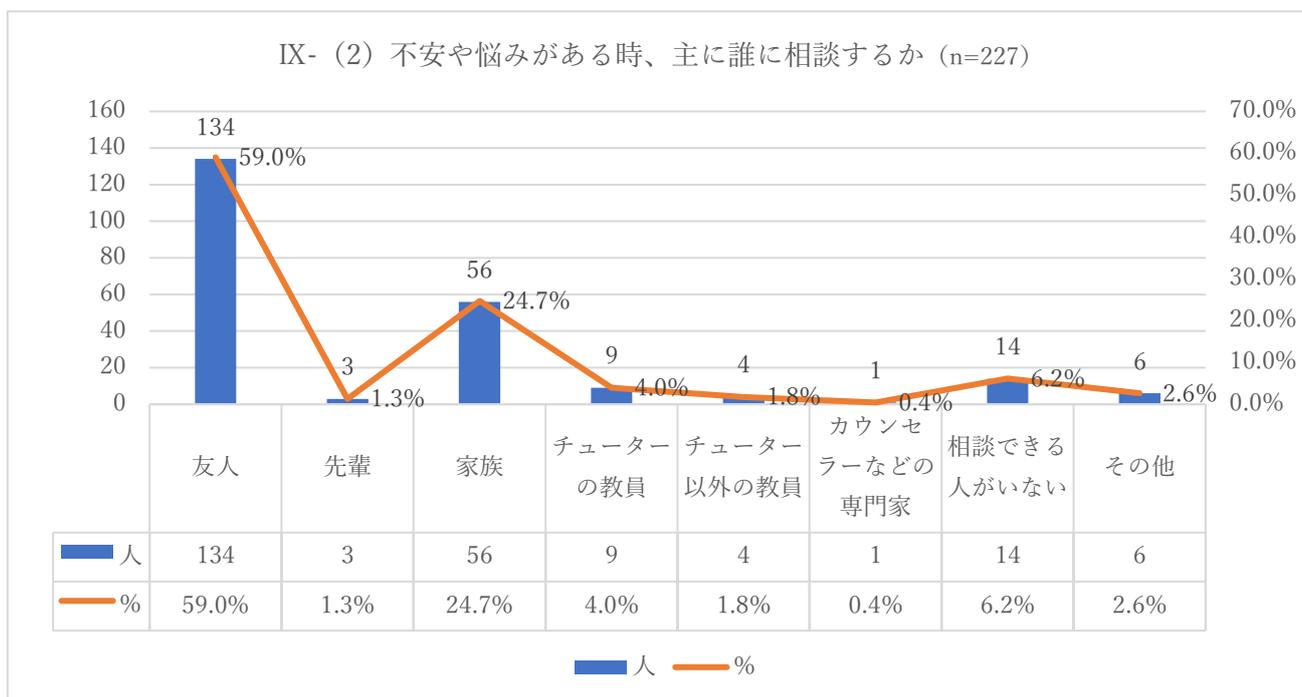
現在の学生生活の悩みがない学生は約6割で前年より微増し、悩みのある学生は約4割で、悩みの程度が少しの学生が約8割を占める。



(2) 不安や悩みがある時の主な相談相手について

- ① 「友人」59.0%、「家族」24.7%を合わせると83.7%であり、前年の89%（「友人」54%、「家族」35%）より減少していた。
- ② 「相談できる人がいない」6.2%は第3位で、前年の3%より倍増していた。
- ③ これ以外には、「チューターの教員」4.0%、「チューター以外の教員」1.8%、「カウンセラーなどの専門家」0.4%で合わせると6.2%であり、前年の4.7%（「チューターの教員」4.1%、「チューター以外の教員」「カウンセラーなどの専門家」各0.3%）より微増していた。
- ④ 「その他」2.6%の内訳は、相談しない、自分で解決する、インターネット上の友達であった。

不安や悩みがある時の主な相談相手は友人が過半数を占め、次に家族であるが、その割合は少し減少している。相談できる人がいない学生は1割弱で、前年より倍増している。チューターの教員、チューター以外の教員、カウンセラーなどの専門家の割合は1割弱（6.2%）であるが、微増している。



「X. 自由記載」の主な内容とその分析結果

項目 (件数)	主な内容	分析結果
学生支援について (16件)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チューターに関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・チューターと話す機会がない</li> <li>・チューターに相談しづらい</li> <li>・模擬試験のフィードバックが欲しい</li> </ul> </li> <li>2. VOICE ボックスが活かされているか分からない</li> <li>3. WILL 保険の申請手続きをしたが、その後どうなっているのか分からない</li> </ol>	<p>チューターによる対応の違いについての意見があり、チューターの対応については対応の統一化を図ることができるよう、引き続き全教員がチューターとしての役割を再認識して学生と向き合う必要がある。しかし、学生も受身の姿勢ではなく、自らチューターと関わるができるように入学期や年度初めのオリエンテーション等でアナウンスし、啓発していく必要がある。</p>

<p>屋内施設について (59件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Wi-Fiが繋がりにくい</li> <li>・2つの教室で授業をする時、教員がいる方の教室は指を指しているところ分かるが、反対の教室で授業を受けている学生はどこが大切なのか分からない</li> <li>・自習室でうるさい学生がいて勉強する時に迷惑</li> <li>・演習室や自習室の休日開放や開放時間の延長希望</li> <li>・図書館の空調が暑い</li> <li>・ミヅキホールのモスキート音がうるさい</li> </ul>	<p>前年度調査と同様、Wi-Fi接続に関する意見が多く寄せられていた。コロナ禍の長期化に伴い今後もオンラインを活用した講義や使用教室の配置が予想されるため、インターネット環境の整備についても引き続き検討していく必要がある。</p> <p>また、講義室を2部屋使用して講義を行う場合の講義展開や講義資料作成における工夫を各教員が継続して行っていく必要がある。</p> <p>演習室等施設の開放時間拡大を求めるものについては、夜間開放に伴う危険等が考慮されていることを学生に伝え、開放時間が設けられている根拠も含め、学生が理解できるようにアナウンスしていく必要がある。</p> <p>図書館の空調については図書館職員と連携し、温度設定を検討していく必要がある。</p> <p>ミヅキホールのモスキート音に関しては、ミヅキホールに限らず学習環境を整えるために教職員間で連携を図り、講義室の機材を確認する等の環境整備を継続して行っていく必要がある。</p>
<p>屋外施設について (22件)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 駐車場に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部生も駐車場使用を許可してほしい</li> <li>・近辺の月極駐車場を借りて使用している学生もいるのに、無断で職員駐車場を利用している学生がいるのはおかしい</li> </ul> </li> <li>2. 駐輪場に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・強風時に自転車倒れてしまうので、学生会館横の駐輪場に輪留めを設置してほしい</li> </ul> </li> <li>3. 屋外通路に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・本館と学生会館の通路に屋根をつけてほしい</li> </ul> </li> </ol>	<p>引き続き、学部生に無断駐車禁止のアナウンスを継続していく必要がある。</p> <p>学生会館横の駐輪場については、今年度自治会費で駐輪場の整備が計画されているため、意見に対する改善が見込まれる。</p> <p>本館と学生会館の通路に屋根の設置希望については、学生会館でも講義を実施しており、学生のみならず教職員も屋外通路を利用する頻度が以前と比較して増加している。そのため、施設整備における今後の検討課題である。</p>

<p>大学生活全般について (18 件)</p>	<p>1. 体育館の使用に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育館を開放してほしい</li> <li>・ 体を動かしたいが、体育館が閉まっ ていてできない</li> <li>・ サークル活動を再開してほしい</li> </ul> <p>2. 事務の対応に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務職員の対応を丁寧にしてほしい</li> <li>・ 事務職員の連絡事項の伝達を早くして ほしい</li> <li>・ 掲示ミスがないようにしてほしい</li> </ul>	<p>運動する機会や場所を求める意見があ った。コロナ禍で部活動やサークル 活動に制限が設けられていることか ら、学生間の交流や気分転換の機会が 減少していることが窺える。引き続 き、新型コロナウイルス感染症拡大状 況や国の方針を踏まえて学生の活動制 限解除を検討していく必要がある。</p> <p>学生への連絡事項の伝達時期や掲示 板の掲示ミスについては、教職員間で 連携を図り、確認を重ねて行うなど改 善策を講じていく必要がある。</p>
<p>その他 (10 件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IC グラスをもっと丈夫な物にしてほし い</li> <li>・ 自動販売機を増やしてほしい</li> <li>・ コンビニのような売店を設けてほしい</li> </ul>	<p>IC グラスは学内での演習や臨地実 習で使用しており、使用頻度も高いこ とから破損頻度によっては採用品の変 更を検討する可能性がある。</p>

#### 7. 学生生活満足度に関する評価および改善の方向性

「Ⅰ.学生支援」の各項目において学生の利用が促進されている現状が明らかとなり、学生の満足度では9割以上の評価が得られていた。「Ⅱ.屋内施設」については概ね利用されており、学生の満足度では8割(自習室)から9割強の評価が得られていた。「Ⅲ.屋外施設」については、7割(駐輪場)から9割以上の学生の利用状況が明らかとなり、学生の満足度では8割から9割以上の評価が得られていた。「Ⅳ.大学生活全般」では、特に学生自治会・学生団体活動の経験のない学生は3割を占め、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う部・サークル活動の制限等により学生間交流の機会が少ないことが窺えたが、学生の満足度では8割の評価が確保できていた。また、それ以外の項目では9割以上の利用が確認され、8割から9割以上の評価が得られていた。「Ⅴ.総合的な学生生活に対する満足度」では、9割強の学生は学生生活に満足しているという肯定的評価が得られた。

これらの結果に基づき、今後さらなる改善の方向性については、主にオフィスアワーの利用者の拡大、図書館利用経験なしの学生数ゼロの達成、自習室の利用満足度の向上等を中心に検討する必要があると考える。

#### 8. 学生生活の実態に関する評価および改善の方向性

学生の「生活状況」「修学の状況」「学生自治会・学生団体活動の状況」「学生生活の悩み」について詳細が明らかとなり、本学の学生生活の特徴が示された。特に、アルバイトの1日当たりの平均時間や学修の1日当たりの平均学習時間、授業全般を平均して授業についていけないと感じる学生の増加、授業での不明点の対応として自分で学習する学生の減少などの実態から、さらなる学習支援の必要性が示された。

また、学生自治会・学生団体(部、サークル)活動の参加経験がある学生は約4割で半数以下となり、逆に参加している学生は約2割で非常に少ない現状が明らかになった。このことから、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学生生活に制限が設けられていることは学生のストレスに繋がることが考えられる。コロナ禍3年目となり、学生・教員共にコロナ禍に適応しながら日々を過ごしているが、現時点で終息の見込みがないことから引き続き対応が求められることは明らかである。感染対策と同時に、学生の学習支援や学生生活の充実を図ることができるよう、学生支援を工夫して継続していく必要がある。